









LABOLOGY

製品要覧

Product Catalogue

日局試験用培地

試験・検査用培地

培養基材

細胞培養用培地

特注品培地

世界中のラボにとって、
なくてはならない会社へ。











製品要覧

LABOLOGY

特注品培地の製造依頼方法について

お客様独自の組成・規格・容量で培地を特注製造いたします。小ロットから対応可能。お気軽にご相談ください。

■ こんなお困りごとに対応できます

独自組成の培地を製造したい
配合比・成分を自由に指定
例）ビタミン添加・特殊成分配合

販売中止品と同等品が欲しい
代替品の特注製造に対応
組成をご提示いただければ対応可

サイズ・容量を変更したい
混合比・容量の自由設定可
例）A+B混合培地・液体500mL等

■ 依頼の流れ

1 **お問い合わせ**
メール・電話・代理店

→ 2 **仕様の確認**
組成・性状・容量
数量・納期をご提示

→ 3 **お見積り・ご確認**
納期・価格をご提示
ご承認後に製造開始

→ 4 **製造・品質確認**
自社出荷試験を実施
（追加試験も相談可）

→ 5 **納品**
ご希望の納期に
お届け

■ 依頼時にお知らせいただく情報

お客様情報
・御社名・ご担当者名
・電話番号・メールアドレス
・ご希望の納品時期
・その他ご要望・ご質問

培地仕様
・培地の組成（成分と精製水1Lあたりのグラム数）
・性状（粉末 / 液体）
・容量・数量
・追加試験希望の有無（試験方法をご指示ください）

富士フイルム和光純薬 または 代理店を通じてご依頼ください

■ 注意事項

・特許等の第三者権利の確認はお客様にてお願いします
・製品試験は自社基準の出荷試験のみ実施（追加試験は別途費用が発生します）
・お客様設定の組成・規格での製造のため、返品・交換対応は致しかねます
・特注品使用に起因する問題はお客様の責任となります

【参考資料】SDS・規格書・成績書の取得方法

弊社ホームページ（LABOLOGY）から、製品ごとのSDS・規格書・成績書をPDFでダウンロードできます

1 ホームページを開く

URL: https://www.labology.co.jp

トップページのメニューから
「培地について」をクリック

「培地の製造・販売について」の
ページを開く



2 ページを下にスクロールして検索フォームに入力する

ページ下部の「成績書・SDS・規格書検索」
フォームに進む

取得したい書類の種別を選択し、必要項目を
入力して「検索」をクリック

成績書：製品番号 ＋ ロット番号
SDS・規格書：製品番号のみ



3 PDFをダウンロードして内容を確認する

検索後、PDFが自動的にダウンロードされます。内容をご確認ください。

※ 製品番号・ロット番号はラベルまたは納品書にてご確認ください

PDF Download
SDS / 規格書 / 成績書

【参考資料】微生物試験用培地の選定表

用途 / 微生物	無菌試験用	生菌数測定用培地		増菌用培地	分離用培地	確認用培地	菌株保存用	防腐剤
	培　地	平板法	MPN法				培　地	不活化用
一般細菌	・液状チオグリコール酸培地 ・変法チオグリコール酸培地	・SCD寒天培地 ・SCDLP寒天培地 ・標準寒天培地	・SCD培地 ・SCDLP培地	・SCD培地 ・SCDLP培地	・SCD寒天培地 ・SCDLP寒天培地 ・抗黴培地※	―	・SCD寒天培地	
真菌 (カビ・酵母)	・SCD培地	・GP寒天培地 ・GPLP寒天培地 ・サブロー・ブドウ糖カンテン培地 ・ポテト・デキストロースカンテン培地	・GPLP培地 ・サブロー・ブドウ糖培地	・GPLP培地 ・サブロー・ブドウ糖培地	・GP寒天培地 ・GPLP寒天培地 ・サブロー・ブドウ糖カンテン培地 ・ポテト・デキストロースカンテン培地	―	・GP寒天培地 ・サブロー・ブドウ糖カンテン培地 ・ポテト・デキストロースカンテン培地	
大腸菌 (E. coli)	―	★新製品 ・ColiSpect R/B	―	―	★新製品 ・ColiSpect R/B	―	・SCD寒天培地	
大腸菌群	―	★新製品 ・ColiSpect R/B	・乳糖ブイヨン培地 ・BGLB培地	・乳糖ブイヨン培地 ・BGLB培地	★新製品 ・ColiSpect R/B ・デスオキシコレート寒天培地 ・EMB寒天培地 ・マッコンキーカンテン培地	・乳糖ブイヨン培地 ・BGLB培地 ・EC培地	・SCD寒天培地	・LP希釈液 ・レシチン
緑膿菌	―	―	―	・SCD培地 ・SCDLP培地	・セトリミドカンテン培地	―	・SCD寒天培地	
黄色ブドウ球菌	―	―	―	・SCD培地 ・SCDLP培地	・フォーゲル・ジョンソン寒天培地 ・マンニット食塩カンテン培地 ・ベアード・パーカー寒天培地	―	・SCD寒天培地	
サルモネラ	―	―	―	・EEMブイヨン培地 ・ハーナ・テトラチオン酸塩基礎培地 ・亜硫酸ビスマス寒天培地 ・セレナイト・システィン基礎培地 ・テトラチオネート培地	・ＸＬＤ寒天培地 ・マッコンキーカンテン培地 ・ＤＨＬ寒天培地 ・ブリリアントグリン寒天培地	・TSI寒天培地	・SCD寒天培地	

※ 真菌類は選択的に繁殖を抑制し、細菌類は繁殖する

【参考資料】微生物培養基材一覧

製品名	ハイポリペプトン「塩谷」	ハイポリペプトンS	ハイポリペプトンN	ハイポリペプトンNS
種類	カゼインペプトン	大豆ペプトン	大豆ペプトン	大豆ペプトン
コード・包装	393-02265　500 g 399-02267　15 kg	398-02173　300 g 398-02178　10 kg	397-02121　300 g 395-02127　10 kg ※ハラル・コーシャ認定は10 kgのみ	393-02101　300 g 391-02107　10 kg ※ハラル・コーシャ認定は20 kg特注品のみ
原料	牛乳カゼイン（NZ産）	脱脂大豆	大豆精製物	脱脂大豆
消化酵素	動物由来酵素	動物・植物由来酵素	微生物由来酵素	微生物由来酵素
特徴	・日本薬局方試験に準拠した製品です ・牛乳カゼインは、ニュージーランド産(BSE非発生国)を使用しています ・日本での製造所で酵素分解し、最終製品としています ・牛乳カゼインの酵素分解物各種発酵工業用及びワクチン製造他、各種微生物の大量培養に適しています	・ハイポリペプトン「塩谷」の性能を補足する場合にも使用できます ・微生物の培養に広く利用できます ・医真菌、植物病原真菌、サルモネラ、ナイセリア、クロストリジウム等の発育困難な菌の培養に適しています	・製造はハラールおよびコーシャ認証工場で行っています ・動物由来の原料を使用しない非動物性ペプトンです	・製造はハラールおよびコーシャ認証工場で行っています ・動物由来の原料を使用しない非動物性ペプトンです ・医真菌、植物病原真菌、サルモネラ、ナイセリア、クロストリジウム等の発育困難な菌の培養に適している
規格値	総窒素：11%以上	総窒素：7%以上	総窒素：12%以上	総窒素：7%以上
	アミノ酸窒素：5〜7%	アミノ酸窒素：3〜5%	アミノ酸窒素：5〜7%	アミノ酸窒素：3〜5%
	強熱残分：10%以下	強熱残分：23%以下	強熱残分：15%以下	強熱残分：23%以下
	乾燥減量：6%以下	乾燥減量：6%以下	乾燥減量：6%以下	乾燥減量：9%以下

【参考資料】微生物培養基材一覧

製品名	ハイカザミノ酸 「ダイゴ」	粉末酵母エキス D-3H	粉末酵母エキス FH
種類	ペプトン（酸分解物）	酵母エキス	酵母エキス
コード・包装	393-02145　500 g 399-02147　10 kg	398-02151　250 g 396-02157　10 kg	393-02167　10 kg
原料	牛乳カゼイン	酵母	酵母
消化酵素	酸分解物	ー	ー
特徴	・たん白質はほとんどアミノ酸まで分解されています ・たん白質以外の栄養源または発育因子はほとんど含みません ・細菌生理学・同遺伝学などの基礎的分野の培地の純窒素源として最適です ・ビタミン（特にB12）の定量用培地における窒素源として使用 ・酵素消化ペプトンの使用が好ましくない培地（ミュラー・ヒントン培地等）への栄養源としても利用可能	・水溶性成分を独自の自己消化法により抽出 ・淡褐色粉末で、ビタミン群、各種ミネラル類等を含有しています ・無菌試験用チオグリコール酸培地に発育要素として使用 ・Bioassayに用いる乳酸菌類の培養に適しています ・牛乳製品あるいは食品の微生物検査用培地に使用 ・抗生物質発酵等の培養基材に適しています	・水溶性成分を独自の自己消化法により抽出 ・淡褐色粉末で、ビタミン群、各種ミネラル類等を含有しています ・無菌試験用チオグリコール酸培地に発育要素として使用 ・Bioassayに用いる乳酸菌類の培養に適しています ・牛乳製品あるいは食品の微生物検査用培地に使用 ・抗生物質発酵等の培養基材に適しています
規格値	総窒素：7%以上	総窒素：10%以上	総窒素：10%以上
	アミノ酸窒素：54～83%	アミノ酸窒素：5%以上	ー
	強熱残分：52%以下	強熱残分：15%以下	強熱残分：15%以下
	乾燥減量：8%以下 塩化物(NaCl)：28～40% pH：6～7	乾燥減量：8%以下	乾燥減量：6%以下 pH：5～6

製品一覧

和光コードNo.	品　名	用　途	包装	頁
【Ⅰ】 日局試験用培地				
日局試験用培地				
393-01621	液状チオグリコール酸培地「ダイゴ」日局試験用	・無菌試験法 ・無菌医薬品製造区域の微生物評価試験法	300 g	1
390-01631	変法チオグリコール酸培地「ダイゴ」日局試験用	・無菌試験法	300 g	1
394-01771	ソイビーン・カゼイン・ダイジェストカンテン培地「ダイゴ」日局試験用	・微生物限度試験法 ・無菌医薬品製造区域の微生物評価試験法 ・保存効力試験法 ・生薬の微生物限度試験法	300 g	2
397-01761	ソイビーン・カゼイン・ダイジェスト培地「ダイゴ」日局試験用	・無菌試験法 ・無菌医薬品製造区域の微生物評価試験法 ・微生物限度試験法 ・培地充てん試験（プロセスシミュレーション） ・生薬の微生物限度試験法	300 g	2
392-01831	サブロー・ブドウ糖カンテン培地「ダイゴ」日局試験用	・微生物限度試験法 ・無菌医薬品製造区域の微生物評価試験法 ・保存効力試験法 ・生薬の微生物限度試験法	300 g	3
398-01811	サブロー・ブドウ糖液体培地「ダイゴ」日局試験用	・微生物限度試験法 ・無菌医薬品製造区域の微生物評価試験法	300 g	3
399-01841	ポテト・デキストロースカンテン培地「ダイゴ」日局試験用	・微生物限度試験法 ・無菌医薬品製造区域の微生物評価試験法 ・保存効力試験法 ・生薬の微生物限度試験法	300 g	4
395-01701	モーゼル腸内細菌増菌ブイヨン培地「ダイゴ」日局試験用	・微生物限度試験法 ・生薬の微生物限度試験法	300 g	4
398-01791	バイオレット・レッド・胆汁酸・ブドウ糖カンテン培地「ダイゴ」日局試験用	・微生物限度試験法 ・生薬の微生物限度試験法	300 g	5
391-01801	マッコンキー液体培地「ダイゴ」日局試験用	・微生物限度試験法	300 g	5
390-01751	マッコンキーカンテン培地「ダイゴ」日局試験用	・微生物限度試験法	300 g	6
393-01741	ラパポート・バシリアジス・サルモネラ増菌液体培地「ダイゴ」日局試験用	・微生物限度試験法	300 g	6
396-01731	ＸＬＤ（キシロース・リジン・テソキシコール酸）カンテン培地「ダイゴ」 日局試験用	・微生物限度試験法 ・生薬の微生物限度試験法	300 g	7
399-01721	セトリミドカンテン培地「ダイゴ」日局試験用	・微生物限度試験法	300 g	7
396-01851	マンニット食塩カンテン培地「ダイゴ」日局試験用	・微生物限度試験法 ・生薬の微生物限度試験法	300 g	8
391-01781	強化クロストリジア培地「ダイゴ」日局試験用	・微生物限度試験法 ・無菌医薬品製造区域の微生物評価試験法	300 g	8
395-01821	コロンビアカンテン培地「ダイゴ」日局試験用	・微生物限度試験法	300 g	9
395-01181	フォーゲル・ジョンソン寒天培地「ダイゴ」日局試験用	・生薬の微生物限度試験法	300 g	9
392-01191	ベアード・パーカー寒天培地「ダイゴ」日局試験用	・生薬の微生物限度試験法	300 g	10
397-01325	日局充てん試験対応ソイビーン・カゼイン・ダイジェスト培地「ダイゴ」	・培地充てん試験（プロセスシミュレーション）	500 g	10
洗浄液				
392-01711	ペプトン食塩緩衝液 pH7.0「ダイゴ」日局試験用	・微生物限度試験法 ・生薬の微生物限度試験法 ・無菌医薬品製造区域の微生物評価試験法	300 g	11
397-00281	ＬＰ希釈液「ダイゴ」	・無菌医薬品製造区域の微生物評価試験法 ・防腐剤不活化検体前処理用	30 g×5	11

製品一覧

和光コードNo.	品　名	用　途	包装	頁
【II】 試験・検査用培地 ①				
一般細菌検査用				
396-00175	ＳＣＤ寒天培地「ダイゴ」	・一般細菌生菌数測定 ・分離	500 g	12
393-00185	ＳＣＤ培地「ダイゴ」	・一般細菌生菌数測定 ・増菌 ・無菌試験用	500 g	12
398-00255	ＳＣＤＬＰ寒天培地「ダイゴ」	・防腐剤不活化 ・一般細菌生菌数測定 ・分離	500 g	13
395-00265	ＳＣＤＬＰ培地「ダイゴ」	・防腐剤不活化 ・一般細菌生菌数測定 ・増菌	500 g	13
生産ライン無菌試験用				
392-00817	ＳＣＤ濃縮液体培地「ダイゴ」	・生産ライン無菌試験用	12.5 kg	14
腸内細菌検査用（サルモネラ）				
390-00391	ＥＥＭブイヨン培地「ダイゴ」	・サルモネラ前培養	300 g	14
390-00411	ハーナ・テトラチオン酸塩基礎培地「ダイゴ」	・サルモネラ及びアリゾナ増菌	300 g	15
395-00461	ＤＨＬ寒天培地「ダイゴ」	・サルモネラ及びシゲラ分離	300 g	15
397-00421	ＸＬＤ寒天培地「ダイゴ」	・サルモネラ及びシゲラ分離	300 g	16
396-02211	セレナイト・シスチン基礎培地「ダイゴ」	・腸内細菌検査用 ・サルモネラ増菌用	300 g	16
393-02221	テトラチオネート培地「ダイゴ」	・腸内細菌検査用 ・サルモネラ増菌用	300 g	17
390-02231	ブリリアントグリン寒天培地「ダイゴ」	・腸内細菌検査用 ・サルモネラ増菌用	300 g	17
397-02241	亜硫酸ビスマス寒天培地「ダイゴ」	・腸内細菌検査用 ・サルモネラ増菌用	300 g	18
394-02251	ＴＳＩ寒天培地「ダイゴ」	・腸内細菌検査用 ・サルモネラ増菌用	300 g	18

製品一覧

和光コードNo.	品　名	用　途	包装	頁
【II】 試験・検査用培地 ② ― 大腸菌・大腸菌群検査用				
★ 大腸菌・大腸菌群検査用（新製品）				
395-02281	**★ ColiSpect R/B（大腸菌・大腸菌群同時判定培地）**	・大腸菌（青色）及び大腸菌群（ピンク/赤色）を 1枚のシャーレで同時計数 ※下水道法令和7年4月施行対応	**150 g**	**19**
大腸菌（群）検査用				
397-00301	乳糖ブイヨン培地「ダイゴ」	・大腸菌群生菌数測定 ・増菌 ・確認	300 g	19
396-02191	乳糖ブイヨン「ダイゴ」日局16処方	・大腸菌（群）検査用 ・大腸菌群増菌用	300 g	20
395-00341	デスオキシコレート寒天培地「ダイゴ」	・大腸菌群分離	300 g	20
398-00451	ＢＧＬＢ培地「ダイゴ」	・食品の大腸菌群検査	300 g	21
392-00471	ＥＣ培地「ダイゴ」	・食品の大腸菌検査	300 g	21
399-02201	ＥＭＢ寒天培地「ダイゴ」	・大腸菌（群）検査用 ・大腸菌群培養用	300 g	22
食品中の生菌数測定用				
393-00381	標準寒天培地「ダイゴ」	・食品の生菌数測定	300 g	22
真菌検査用				
399-02181	ＧＰ寒天培地「ダイゴ」	・真菌検査用 ・生菌数測定用（真菌）	300 g	23
394-00235	ＧＰＬＰ寒天培地「ダイゴ」	・防腐剤不活化 ・真菌生菌数測定 ・分離	500 g	23
391-00245	ＧＰＬＰ培地「ダイゴ」	・防腐剤不活化 ・真菌生菌数測定 ・増菌	500 g	24
392-01875	サブロー・ブドウ糖ＬＰカンテン培地「ダイゴ」	・防腐剤不活化 ・真菌生菌数測定 ・分離	500 g	24
399-01885	サブロー・ブドウ糖ＬＰ液体培地「ダイゴ」	・防腐剤不活化 ・真菌生菌数測定 ・増菌	500 g	25
従属栄養細菌検査用				
396-01611	Ｒ２Ａ寒天培地「ダイゴ」	・従属栄養細菌検査	300 g	25
395-01681	Ｒ２Ａ培地「ダイゴ」	・従属栄養細菌検査	300 g	26
その他検査用				
390-00151	抗黴培地「ダイゴ」	・真菌抑制 ・細菌分離	50 g	26
398-01671	Ｌ－乾燥標品復元用培地「ダイゴ」	・菌株の復元 ・維持培養	1セット	27

製品一覧

和光コードNo.	品　名	用　途	包装	頁
【III】 培養基材				
ペプトン（カゼイン・大豆）				
393-02265	ハイポリペプトン「塩谷」	・微生物培養基用【局方試験 準拠品】	500 g	28
399-02267			15 kg	28
398-02173	ハイポリペプトンＳ	・微生物培養基用	300 g	28
398-02178			10 kg	28
397-02121	ハイポリペプトンＮ	・微生物培養基用【ハラール・コーシャ認定工場製造】	300 g	29
395-02127			10 kg	29
393-02101	ハイポリペプトンＮＳ	・微生物培養基用【ハラール・コーシャ認定工場製造】	300 g	29
391-02107			10 kg	29
393-02145	ハイカザミノ酸「ダイゴ」	・微生物培養基用	500 g	30
399-02147			10 kg	30
酵母エキス				
398-02151	粉末酵母エキスD-３Ｈ	・微生物培養基用	250 g	30
396-02157			10 kg	30
393-02167	粉末酵母エキスＦＨ	・微生物培養基用	10 kg	31
【IV】 細胞培養用培地				
植物培養用				
392-00591	ムラシゲ・スクーグ培地用混合塩類	・ムラシゲ・スクーグ培地用	１Ｌ用×20	32
396-02037			１0Ｌ用×5	32
399-00621	ガンボーグＢ５培地用混合塩類	・ガンボーグＢ５培地用	１Ｌ用×20	32
391-02021	チュー（Ｎ６）培地用混合塩類	・チュー（Ｎ６）培地用	１Ｌ用×20	33
399-02027			１0Ｌ用×5	33
海産微細藻類培養用				
398-01333	ダイゴＩＭＫ培地	・海産微細藻類培養	100 L用×10	33
392-01331			1000 L用	33
395-01343	ダイゴ人工海水　ＳＰ	・海産微細藻類培養	１L用×10	34
【V】 その他				
遺伝子工学・大腸菌用				
396-00871	ＬＢ培地「ダイゴ」	・大腸菌用培地	100 mL用 ×50	35
393-00881	ＬＢ寒天培地「ダイゴ」	・大腸菌用培地	100 mL用 ×50	35
試薬				
397-00161	カビサイジン	・真菌抑制（抗生物質）	100 mg力価 ×5	36
390-00271	レシチン	・防腐剤不活化	10 g	36
398-00331	１％亜テルル酸カリウム溶液「ダイゴ」	・フォーゲル・ジョンソン 寒天培地添加用 ・ベアード・パーカー寒天培地添加用	2 mL×50	37

※ 参考：使用期限の設定が無い製品については、お客様で基準を決めて設定して下さい。
（例）購入後 〇年間の使用期限とする

日局試験用

液状チオグリコール酸培地「ダイゴ」日局試験用

Fluid Thioglycollate Medium
》DAIGO《 for JP Pharmacopoeia test

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】393-01621（300 g）

組 成（精製水1 L 当たり）

L－シスチン	0.5 g
カンテン	0.75 g
塩化ナトリウム	2.5 g
ブドウ糖	5.0 g
酵母エキス	5.0 g
カゼイン製ペプトン	15.0 g
チオグリコール酸ナトリウム	0.5 g
レザズリン	0.001 g
滅菌後のpH	6.9 ～ 7.3

調 製 法

本品29.3 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜたのち、加熱溶解し、容器に分注後、バリデートされた方法で滅菌した後、2～25℃で保存する。

用 途

日局19　無菌試験法
日局17　無菌医薬品製造区域の微生物評価試験法（参考）
※日局17第二追補において削除された試験法については、引き続き参考として取り扱う（令和元年6月28日 厚労省 医薬・生活衛生局 事務連絡）

試 験 菌 株

Staphylococcus aureus NBRC 13276
Pseudomonas aeruginosa NBRC 13275
Clostridium sporogenes NBRC 14293

使 用 期 限

製造後 3年

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓すること。室温保存。

参 考 文 献

1）第十九改正日本薬局方（2026）

日局試験用

変法チオグリコール酸培地「ダイゴ」日局試験用

Alternative Thioglycollate Medium
》DAIGO《 for JP Pharmacopoeia test

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】390-01631（300 g）

組 成（精製水1 L 当たり）

L－シスチン	0.5 g
塩化ナトリウム	2.5 g
ブドウ糖	5.0 g
酵母エキス	5.0 g
カゼイン製ペプトン	15.0 g
チオグリコール酸ナトリウム	0.5 g
滅菌後のpH	6.9 ～ 7.3

調 製 法

本品28.5 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜたのち、加温溶解し、容器に分注後、バリデートされた方法で滅菌した後、2～25℃で保存する。

用 途

日局19　無菌試験法

試 験 菌 株

Clostridium sporogenes NBRC 14293

使 用 期 限

製造後 3年

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓すること。室温保存。

参 考 文 献

1）第十九改正日本薬局方（2026）

日局試験用

ソイビーン・カゼイン・ダイジェスト カンテン培地「ダイゴ」日局試験用

Casein soya bean digest agar
》DAIGO《 for JP Pharmacopoeia test

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】394-01771（300 g）

組 成（精製水1 L 当たり）

カゼイン製ペプトン	15.0 g
ダイズ製ペプトン	5.0 g
塩化ナトリウム	5.0 g
カンテン	15.0 g
滅菌後のpH	7.1 ～ 7.5

調 製 法

本品40 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜたのち、加熱溶解し、容器に分注後、確認されたサイクルで高圧蒸気滅菌する。

用 途

日局19　微生物限度試験法
日局19　保存効力試験法
日局19　生薬の微生物限度試験法
日局17　無菌医薬品製造区域の微生物管理試験法（参考）
※日局17第二追補において削除された試験法については、引き続き参考として取り扱う（令和元年6月28日 厚労省 医薬・生活衛生局 事務連絡）

試 験 菌 株

Staphylococcus aureus NBRC 13276
Pseudomonas aeruginosa NBRC 13275
Bacillus subtilis NBRC 3134
Candida albicans NBRC 1594
Aspergillus brasiliensis NBRC 9455
Escherichia coli NBRC 3972

使 用 期 限

製造後 2年

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓すること。室温保存。

参 考 文 献

1）第十九改正日本薬局方（2026）

日局試験用

ソイビーン・カゼイン・ダイジェスト 「ダイゴ」日局試験用

Casein soya bean digest broth
》DAIGO《 for JP Pharmacopoeia test

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】397-01761（300 g）

組 成（精製水1 L 当たり）

カゼイン製ペプトン	17.0 g
ダイズ製ペプトン	3.0 g
塩化ナトリウム	5.0 g
リン酸水素二カリウム	2.5 g
ブドウ糖一水和物	2.5 g
滅菌後のpH	7.1 ～ 7.5

調 製 法

本品29.8 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜたのち、加温溶解し、容器に分注後、確認されたサイクルで高圧蒸気滅菌する。

用 途

日局19　無菌試験法
日局19　微生物限度試験法
日局19　生薬の微生物限度試験法
日局17　無菌医薬品製造区域の微生物管理試験法（参考）
日局17　培地充てん試験（プロセスシミュレーション）（参考）
※日局17第二追補において削除された試験法については、引き続き参考として取り扱う（令和元年6月28日 厚労省 医薬・生活衛生局 事務連絡）

試 験 菌 株

Staphylococcus aureus NBRC 13276
Pseudomonas aeruginosa NBRC 13275
Bacillus subtilis NBRC 3134
Candida albicans NBRC 1594
Aspergillus brasiliensis NBRC 9455
Escherichia coli NBRC 3972

使 用 期 限

製造後 3年

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓すること。室温保存。

参 考 文 献

1）第十九改正日本薬局方（2026）

日局試験用

サブロー･ブドウ糖カンテン培地「ダイゴ」日局試験用

Sabouraud-dextrose agar
》DAIGO《 for JP Pharmacopoeia test

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】392-01831（300 g）

組 成（精製水1 L 当たり）

ブドウ糖	40.0 g
ペプトン（肉製及びカゼイン製 1:1）	10.0 g
カンテン	15.0 g
滅菌後のpH	5.4 ～ 5.8

調 製 法

本品65 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜたのち、加熱溶解し、容器に分注後、確認されたサイクルで高圧蒸気滅菌する。

用 途

日局19　微生物限度試験法
日局19　保存効力試験法
日局19　生薬の微生物限度試験法
日局17　無菌医薬品製造区域の微生物管理試験法（参考）
※日局17第二追補において削除された試験法については、引き続き参考として取り扱う（令和元年6月28日 厚労省 医薬・生活衛生局 事務連絡）

試 験 菌 株

Candida albicans NBRC 1594
Aspergillus brasiliensis NBRC 9455

使 用 期 限

製造後 3年

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓すること。室温保存。

参 考 文 献

1）第十九改正日本薬局方（2026）

日局試験用

サブロー･ブドウ糖液体培地「ダイゴ」日局試験用

Sabouraud-dextrose broth
》DAIGO《 for JP Pharmacopoeia test

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】398-01811（300 g）

組 成（精製水1 L 当たり）

ペプトン（肉製及びカゼイン製 1:1）	10.0 g
ブドウ糖	20.0 g
滅菌後のpH	5.4 ～ 5.8

調 製 法

本品30 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜたのち、加温溶解し、容器に分注後、確認されたサイクルで高圧蒸気滅菌する。

用 途

日局19　微生物限度試験法
日局17　無菌医薬品製造区域の微生物管理試験法（参考）
※日局17第二追補において削除された試験法については、引き続き参考として取り扱う（令和元年6月28日 厚労省 医薬・生活衛生局 事務連絡）

試 験 菌 株

Candida albicans NBRC 1594

使 用 期 限

製造後 3年

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓すること。室温保存。

参 考 文 献

1）第十九改正日本薬局方（2026）

日局試験用

ポテト・デキストロースカンテン培地「ダイゴ」日局試験用

Potato dextrose agar
》DAIGO《 for JP Pharmacopoeia test

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】399-01841（300 g）

組 成（精製水1 L 当たり）

ポテトエキス	4.0 g
ブドウ糖	20.0 g
カンテン	15.0 g
滅菌後のpH	5.4 ～ 5.8

調 製 法

本品39 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜたのち、加熱溶解し、容器に分注後、確認されたサイクルで高圧蒸気滅菌する。

用 途

日局19　微生物限度試験法
日局19　保存効力試験法
日局19　生薬の微生物限度試験法
日局17　無菌医薬品製造区域の微生物管理試験法（参考）
※日局17第二追補において削除された試験法については、引き続き参考として取り扱う（令和元年6月28日 厚労省 医薬・生活衛生局 事務連絡）

試 験 菌 株

Candida albicans NBRC 1594
Aspergillus brasiliensis NBRC 9455

使 用 期 限

製造後 2年

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓すること。室温保存。

参 考 文 献

1）第十九改正日本薬局方（2026）

日局試験用

モーゼル腸内細菌増菌ブイヨン培地「ダイゴ」日局試験用

Enterobacteria enrichment broth-Mossel
》DAIGO《 for JP Pharmacopoeia test

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】395-01701（300 g）

組 成（精製水1 L 当たり）

ゼラチン製ペプトン	10.0 g
ブドウ糖一水和物	5.0 g
乾燥ウシ胆汁	20.0 g
リン酸二水素カリウム	2.0 g
リン酸水素二ナトリウム二水和物	8.0 g
ブリリアントグリン	15.0 mg
加熱後のpH	7.0 ～ 7.4

調 製 法

本品42.9 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜたのち、100℃で30分間加熱し、直ちに冷却する。

用 途

日局19　微生物限度試験法
日局19　生薬の微生物限度試験法

試 験 菌 株

Escherichia coli NBRC 3972
Pseudomonas aeruginosa NBRC 13275
Staphylococcus aureus NBRC 13276
Salmonella enterica subsp.enterica serovar Abony NBRC 100797

使 用 期 限

製造後 3年

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓すること。室温保存。

参 考 文 献

1）第十九改正日本薬局方（2026）

日局試験用

バイオレット･レッド･胆汁酸･ブドウ糖カンテン培地「ダイゴ」日局試験用

Violet red bile glucose agar
》DAIGO《 for JP Pharmacopoeia test

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】398-01791（300 g）

組 成（精製水1 L 当たり）

酵母エキス	3.0 g
ゼラチン製ペプトン	7.0 g
胆汁酸塩	1.5 g
塩化ナトリウム	5.0 g
ブドウ糖一水和物	10.0 g
カンテン	15.0 g
ニュートラルレッド	30 mg
クリスタルバイオレット	2 mg
加熱後のpH	7.2 ～ 7.6

調 製 法

本品41.5 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜたのち、煮沸するまで加熱する。オートクレーブで加熱してはならない。

用 途

日局19　微生物限度試験法
日局19　生薬の微生物限度試験法

試 験 菌 株

Pseudomonas aeruginosa NBRC 13275
Escherichia coli NBRC 3972
Salmonella enterica subsp.enterica serovar Abony NBRC 100797

使 用 期 限

製造後 2年

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓すること。室温保存。

参 考 文 献

1）第十九改正日本薬局方（2026）

日局試験用

マッコンキー液体培地「ダイゴ」日局試験用

MacConkey broth
》DAIGO《 for JP Pharmacopoeia test

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】391-01801（300 g）

組 成（精製水1 L 当たり）

ゼラチン製ペプトン	20.0 g
乳糖一水和物	10.0 g
乾燥ウシ胆汁	5.0 g
ブロモクレゾールパープル	10 mg
滅菌後のpH	7.1 ～ 7.5

調 製 法

本品35 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜたのち、容器に分注する。確認されたサイクルで高圧蒸気滅菌する。

用 途

日局19　微生物限度試験法

試 験 菌 株

Staphylococcus aureus NBRC 13276
Escherichia coli NBRC 3972

使 用 期 限

製造後 3年

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓すること。室温保存。

参 考 文 献

1）第十九改正日本薬局方（2026）

日局試験用

マッコンキーカンテン培地「ダイゴ」日局試験用

MacConkey agar
》DAIGO《 for JP Pharmacopoeia test

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】390-01751（300 g）

組 成（精製水1 L 当たり）

ゼラチン製ペプトン	17.0 g
カゼイン製ペプトン	1.5 g
肉製ペプトン	1.5 g
乳糖一水和物	10.0 g
塩化ナトリウム	5.0 g
胆汁酸塩	1.5 g
カンテン	13.5 g
ニュートラルレッド	30 mg
クリスタルバイオレット	1 mg
滅菌後のpH	6.9 ～ 7.3

調 製 法

本品50 gに精製水1 Lを加えよく振り混ぜる。絶えず振り混ぜながら１分間煮沸させてから、確認されたサイクルで高圧蒸気滅菌する。

用 途

日局19　微生物限度試験法

試 験 菌 株

Escherichia coli NBRC 3972

使 用 期 限

製造後 3年

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓すること。室温保存。

参 考 文 献

1）第十九改正日本薬局方（2026）

日局試験用

ラパポート･バシリアジス･サルモネラ増菌液体培地「ダイゴ」日局試験用

Rappaport Vassiliadis Salmonella Enrichment Broth
》DAIGO《 for JP Pharmacopoeia test

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】393-01741（300 g）

組 成（精製水1 L 当たり）

ダイズ製ペプトン	4.5 g
塩化マグネシウム六水和物	29.0 g
塩化ナトリウム	8.0 g
リン酸水素二カリウム	0.4 g
リン酸二水素カリウム	0.6 g
マラカイトグリーン	36 mg
滅菌後のpH	5.0 ～ 5.4

調 製 法

本品27.1 gに精製水1 Lを加え若干加温しながら溶かし、容器に分注後、115℃を超えない温度で、確認されたサイクルで高圧蒸気滅菌する。

用 途

日局19　微生物限度試験法

試 験 菌 株

Salmonella enterica subsp.enterica serovar Abony NBRC 100797
Staphylococcus aureus NBRC 13276

使 用 期 限

製造後 3年

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓すること。室温保存。

参 考 文 献

1）第十九改正日本薬局方（2026）

日局試験用

ＸＬＤ（ｷｼﾛｰｽ･ﾘｼﾞﾝ･ﾃﾞｿｷｼｺｰﾙ酸）カンテン培地「ダイゴ」日局試験用

Xylose, lysine, deoxycholate agar
》DAIGO《 for JP Pharmacopoeia test

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】396-01731（300 g）

組 成（精製水1Ｌ当たり）

キシロース	3.5 g
Ｌ－リジン	5.0 g
乳糖－水和物	7.5 g
白糖	7.5 g
塩化ナトリウム	5.0 g
酵母エキス	3.0 g
フェノールレッド	80 mg
デソキシコール酸ナトリウム	2.5 g
チオ硫酸ナトリウム	6.8 g
クエン酸アンモニウム鉄（III）	0.8 g
カンテン	13.5 g
加熱後のpH	7.2～7.6

調 製 法

本品55.2 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜたのち、煮沸するまで加熱し、50℃まで冷却してからシャーレに注ぎ込む。
オートクレーブで加熱してはならない。

用 途

日局19　微生物限度試験法
日局19　生薬の微生物限度試験法

試 験 菌 株

Salmonella enterica subsp.enterica serovar Abony NBRC 100797

使 用 期 限

製造後 3年

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓すること。室温保存。

参 考 文 献

1）第十九改正日本薬局方（2026）

日局試験用

セトリミドカンテン培地「ダイゴ」日局試験用

Cetrimide agar
》DAIGO《 for JP Pharmacopoeia test

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】399-01721（300 g）

組 成（精製水1Ｌ当たり）

ゼラチン製ペプトン	20.0 g
塩化マグネシウム	1.4 g
硫酸カリウム	10.0 g
セトリミド	0.3 g
カンテン	13.6 g
(グリセリン)	(10.0 mL)
滅菌後のpH	7.0～7.4

調 製 法

本品45.3 gとグリセリン10.0 mLを精製水1 Lに加え、振り混ぜながら加熱して1分間煮沸する。確認されたサイクルで高圧蒸気滅菌する。

用 途

日局19　微生物限度試験法

試 験 菌 株

Pseudomonas aeruginosa NBRC 13275
Escherichia coli NBRC 3972

使 用 期 限

製造後 3年

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓すること。室温保存。

参 考 文 献

1）第十九改正日本薬局方（2026）

日局試験用

マンニット･食塩カンテン培地「ダイゴ」日局試験用

Mannitol salt agar
》DAIGO《 for JP Pharmacopoeia test

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】396-01851（300 g）

組 成（精製水1 L 当たり）

カゼイン製ペプトン	5.0 g
肉製ペプトン	5.0 g
牛肉エキス	1.0 g
D－マンニトール	10.0 g
塩化ナトリウム	75.0 g
フェノールレッド	25 mg
カンテン	15.0 g
滅菌後のpH	7.2 ～ 7.6

調 製 法

本品111 gを精製水1 Lに加え、振り混ぜながら加熱して1分間煮沸する。確認されたサイクルで高圧蒸気滅菌する。

用 途

日局19　微生物限度試験法
日局19　生薬の微生物限度試験法

試 験 菌 株

Staphylococcus aureus NBRC 13276
Escherichia coli NBRC 3972

使 用 期 限

製造後 3年

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓すること。室温保存。

参 考 文 献

1）第十九改正日本薬局方（2026）

日局試験用

強化クロストリジア培地「ダイゴ」日局試験用

Reinforced medium for Clostridia
》DAIGO《 for JP Pharmacopoeia test

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】391-01781（300 g）

組 成（精製水1 L 当たり）

牛肉エキス	10.0 g
ペプトン	10.0 g
酵母エキス	3.0 g
溶性デンプン	1.0 g
ブドウ糖一水和物	5.0 g
システイン塩酸塩	0.5 g
塩化ナトリウム	5.0 g
酢酸ナトリウム	3.0 g
カンテン	0.5 g
滅菌後のpH	6.6 ～ 7.0

調 製 法

本品37.5 gを精製水1 Lに加え、絶えずかき混ぜながら煮沸するまで加熱して溶かす。確認されたサイクルで高圧蒸気滅菌する。

用 途

日局19　微生物限度試験法
日局17　無菌医薬品製造区域の微生物評価試験法
※日局17第二追補において削除された試験法については、引き続き参考として取り扱う（令和元年6月28日 厚労省 医薬・生活衛生局 事務連絡）

試 験 菌 株

Clostridium sporogenes NBRC 14293

使 用 期 限

製造後 3年

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓すること。室温保存。

参 考 文 献

1）第十九改正日本薬局方（2026）

日局試験用

コロンビアカンテン培地「ダイゴ」日局試験用

Columbia agar
》DAIGO《 for JP Pharmacopoeia test

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】395-01821（300 g）

組 成（精製水1 L 当たり）

カゼイン製ペプトン	10.0 g
肉浸出物のペプシン消化物	5.0 g
心筋浸出物のパンクレアチン消化物	3.0 g
酵母エキス	5.0 g
トウモロコシデンプン	1.0 g
塩化ナトリウム	5.0 g
カンテン	15.0 g
滅菌後のpH	7.1 ～ 7.5

調 製 法

本品44 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜる。絶えずかき混ぜながら煮沸するまで加熱して溶かす。確認されたサイクルで高圧蒸気滅菌する。

用 途

日局19　微生物限度試験法

試 験 菌 株

Clostridium sporogenes NBRC 14293

使 用 期 限

製造後 2年

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓すること。室温保存。

参 考 文 献

1）第十九改正日本薬局方（2026）

日局試験用

フォーゲル･ジョンソン寒天培地「ダイゴ」日局試験用

Vogel-Johnson Agar Medium
》DAIGO《 for JP Pharmacopoeia test

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】395-01181（300 g）

組 成（精製水1 L 当たり）

カゼイン製ペプトン	10.0 g
酵母エキス	5.0 g
D－マンニトール	10.0 g
リン酸水素二カリウム	5.0 g
塩化リチウム	5.0 g
グリシン	10.0 g
フェノールレッド	25 mg
カンテン	16.0 g
滅菌後のpH	7.0 ～ 7.4

調 製 法

本品61 gを精製水1 Lに加え溶かす。1分間煮沸して溶かす。確認されたサイクルで高圧蒸気滅菌後，45 ～ 50°Cに冷却する。これに滅菌亜テルル酸カリウム溶液(1→100) 20 mLを加えて混和する

用 途

日局19　生薬の微生物限度試験法

試 験 菌 株

Staphylococcus aureus NBRC 13276

使 用 期 限

製造後 3年

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓し，2～10°Cに保存すること。

参 考 文 献

1）第十九改正日本薬局方（2026）

日局試験用

ベアード・パーカー寒天培地「ダイゴ」日局試験用

Baird-Parker Agar Medium
》DAIGO《 for JP Pharmacopoeia test

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】392-01191（300 g）

組 成（精製水950ml当たり）

カゼイン製ペプトン	10.0 g
肉エキス	5.0 g
酵母エキス	1.0 g
塩化リチウム	5.0 g
グリシン	12.0 g
焦性ブドウ酸ナトリウム	10.0 g
カンテン	20.0 g
滅菌後のpH	6.6 ～ 7.0

調 製 法

本品63 gを精製水950 mLに加え溶かす。時々激しく振り混ぜながら加熱し、1分間煮沸溶解する。確認されたサイクルで高圧蒸気滅菌する。40～50°Cに冷却後、滅菌亜テルル酸カリウム溶液(1→100)10 mLと卵黄乳濁液（卵黄約30%と生理食塩水約70%の混和調製液）50 mLを加えて混和する。

用 途

日局19　生薬の微生物限度試験法

試 験 菌 株

Staphylococcus aureus NBRC 13276

使 用 期 限

製造後 3年

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓し、2～10°Cに保存すること。

参 考 文 献

1）第十九改正日本薬局方（2026）

日局試験用

日局充てん試験対応 ソイビーン・カゼイン・ダイジェスト培地「ダイゴ」

Fluid Soybean-Casein Digest Medium
》DAIGO《 for JP Pharmacopoeia test

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】397-01325（500 g）

組 成（精製水1Ｌ当たり）

カゼイン製ペプトン	17.0 g
ダイズ製ペプトン	3.0 g
塩化ナトリウム	5.0 g
リン酸水素二カリウム	2.5 g
ブドウ糖一水和物	2.5 g
滅菌後のpH	7.1 ～ 7.5

調 製 法

本品29.8 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜたのち、加温溶解し、容器に分注後、確認されたサイクルで高圧蒸気滅菌する。

用 途

日局17　培地充てん試験（プロセスシミュレーション）
※日局17第二追補において削除された試験法については、引き続き参考として取り扱う（令和元年6月28日 厚労省 医薬・生活衛生局 事務連絡）

試 験 菌 株

Staphylococcus aureus NBRC 13276
Pseudomonas aeruginosa NBRC 13275
Bacillus subtilis NBRC 3134
Candida albicans NBRC 1594
Aspergillus brasiliensis NBRC 9455

使 用 期 限

製造後 3年

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓すること。室温保存。

参 考 文 献

1）第十九改正日本薬局方（2026）

日局試験用

ペプトン食塩緩衝液 pH7.0「ダイゴ」日局試験用

Buffered sodium chloride-peptone solution pH 7.0
》DAIGO《 for JP Pharmacopoeia test

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】392-01711（300 g）

組 成（精製水1 L 当たり）

リン酸二水素カリウム	3.6 g
リン酸水素二ナトリウム二水和物	7.2 g
塩化ナトリウム	4.3 g
ペプトン（肉製又はカゼイン製）	1.0 g
滅菌後のpH	6.9 ～ 7.1

調 製 法

本品14.6 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜたのち、容器に分注する。確認されたサイクルで高圧蒸気滅菌する。

用 途

日局19　微生物限度試験法
日局17　無菌医薬品製造区域の微生物評価試験法
日局19　生薬の微生物限度試験法
※ 第17改正日局第二追補から削除された試験法は引き続き参考とする
（令和元年6月28日 厚労省 医薬・生活衛生局 事務連絡より抜粋）

使 用 期 限

製造後 3年

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓すること。室温保存。

参 考 文 献

1）第十九改正日本薬局方（2026）

医薬品・化粧品検査
防腐剤不活化・検体前処理用

ＬＰ希釈液「ダイゴ」

Diluent with Lecithin & Polysorbate 80
》DAIGO《

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】397-00281（30 g×5）

概 要

本品は、米国CTFA(Cosmetic, Toiletries and Fragrances Association)で使用されているもので、防腐剤を含有する医薬品・化粧品の微生物汚染試験（生菌数測定）に際し、これら検体を均一な乳化液とすること、又前処理操作時の検体中の細菌及び真菌の死滅を防ぎ、製剤中の防腐剤を不活化することを目的とした希釈液である。

組 成（精製水1 L 当たり）

カゼイン製ペプトン	1.0 g
レシチン	0.7 g
ポリソルベート80	20.0 g
精製水	8.3 g
滅菌後のpH	7.0 ～ 7.4

調 製 法

使用時本品を適度に加温して全量（30 g）を精製水1 Lに加えよくかき混ぜたのち、加温溶解し、容器に分注後、121℃で15～20分間高圧蒸気滅菌する。

用 途

日局17　無菌医薬品製造区域の微生物評価試験法
防腐剤不活化検体前処理用
※ 第17改正日局第二追補から削除された試験法は引き続き参考とする
（令和元年6月28日 厚労省 医薬・生活衛生局 事務連絡より抜粋）

注 意 事 項

本品は2~10℃の冷暗所に保存すること。

参 考 文 献

1）石関忠一：日本化粧品技術者連合会会誌 7 (1), 1, 1971.
化粧品の微生物汚染とその検査法について.
2）岩原繁雄：医薬品研究3(4), 444, 1972.
医薬品・化粧品の微生物汚染試験法(第１報).
3）石関忠一：医薬品研究4(2), 175, 1973.
医薬品・化粧品の微生物汚染試験法(第３報).
4）石関忠一他：衛生試験所報告第91号，1973.
防腐剤に関する研究、とくにポリソルベート80及びレシチンによる不活化作用について.
1）第十九改正日本薬局方（2026）

一般細菌検査用　医薬品・化粧品検査
生菌数測定用（細菌）

ＳＣＤ寒天培地「ダイゴ」

Soybean-Casein Digest Agar
》DAIGO《

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】396-00175（500 g）

概 要

本品は、薬発第297号「内用液剤及びＸ線造影剤の菌数の限度及び試験法について」などに収載のソイビーン・カゼイン・ダイジェスト・カンテン培地（SCDカンテン培地、米国薬局方収載）に該当する培地で、医薬品及び化粧品の微生物汚染試験に際し、これら製剤あるいは原料中の一般生菌数（細菌）を測定する目的に使用できる。
なお、本品は普通寒天培地に発育困難なレンサ球菌、肺炎球菌、ナイセリア、ブルセラ、コリネバクテリウム、パスツレラ等の細菌が容易に発育するので、これらの検出用培地としても使用できる。又、本品は微生物検査必携に収載されているトリプチケースソイ寒天培地に相当する。

組 成（精製水1Ｌ当たり）

カゼイン製ペプトン	15.0 g
ダイズ製ペプトン	5.0 g
塩化ナトリウム	5.0 g
カンテン	15.0 g
滅菌後のpH	7.1 ～ 7.5

調 製 法

本品40 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜたのち、加温溶解し、容器に分注後、121℃で15～20分間高圧蒸気滅菌する。

用 途

・医薬品及び化粧品の製剤あるいは原料中の一般生菌数試験
・普通寒天培地で発育困難な細菌の検出用

使 用 期 限

製造後 2年

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓すること。室温保存。

参 考 文 献

1）厚生省薬務局長通知：薬発第297号，昭和51.4.1.
2）米国薬局方：Microbiological Tests.
3）石関忠一：日本化粧品技術者連合会会誌７(1),1, 1971.
化粧品の微生物汚染とその検査法について.
4）岩原繁雄：医薬品研究3(4), 444, 1972.
医薬品・化粧品の微生物汚染試験法（第１報）.
5）石関忠一：医薬品研究４(1),56,1973.
医薬品・化粧品の微生物汚染試験法（第２報）.
6）石関忠一：医薬品研究4(2), 175, 1973.
医薬品・化粧品の微生物汚染試験法（第３報）.
7）C.W.Bruch:Drug & Cosmetic Industry,110(6),32,1972.
Possible modification of USP Microbial Limits and Tests.
8）日本公衆衛生協会：微生物検査必携　細菌・真菌検査 第３版
各論12培地一覧，1987.

一般細菌検査用　医薬品・化粧品検査
無菌試験・生菌数測定用（細菌）

ＳＣＤ培地「ダイゴ」

Soybean-Casein Digest Broth
》DAIGO《

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】393-00185（500 g）

概 要

本品は、薬発第297号「内用液剤及びＸ線造影剤の菌数の限度及び試験法について」などに収載のソイビーン・カゼイン・ダイジェスト・ブロス培地（SCD液状培地、米国薬局方収載）に該当する培地で、生物学的製剤基準にも収載されており、医薬品の無菌試験あるいは医薬品及び化粧品の微生物汚染試験に際し、これら製剤あるいは原料中の一般生菌数（細菌）を測定する目的に使用できる。なお、本品は発育困難な病原菌の増菌用培地としても使用できる。

組 成（精製水1Ｌ当たり）

カゼイン製ペプトン	17.0 g
ダイズ製ペプトン	3.0 g
リン酸水素二カリウム	2.5 g
ブドウ糖一水和物	2.5 g
塩化ナトリウム	5.0 g
滅菌後のpH	7.1 ～ 7.5

調 製 法

本品29.8 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜたのち、加温溶解し、容器に分注後121℃で15～20分間高圧蒸気滅菌する。

用 途

・医薬品の無菌試験
・医薬品及び化粧品の微生物汚染試験
・製剤あるいは原料中の一般生菌数試験
・発育困難な病原菌の増菌用

使 用 期 限

製造後 3年

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓すること。室温保存。

参 考 文 献

1）厚生省薬務局長通知：薬発第297号，昭和51.4.1.
2）米国薬局方:Microbiological Tests.
3）生物学的製剤基準：一般試験法・無菌試験法、2004
4）石関忠一：日本化粧品技術者連合会会誌７(1), 1, 1971.
化粧品の微生物汚染とその検査法について.
5）岩原繁雄：医薬品研究3(4), 444, 1972.
医薬品・化粧品の微生物汚染試験法(第１報).
6）石関忠一：医薬品研究４(1),56,1973.
医薬品・化粧品の微生物汚染試験法（第２報）.
7）石関忠一：医薬品研究4(2), 175, 1973.
医薬品・化粧品の微生物汚染試験法（第３報）.
8）C.W.Bruch:Drug & Cosmetic Industry,110(6),32,1972.
Possible modification of USP Microbial Limits and Tests.
9）J.E. Doyle et al : Applied Microbiology, 16,1742,1968.
Limitations of thioglycollate broth as a sterility test
medium for materials exposed to gaseous ethylene oxide.

一般細菌検査用 **医薬品・化粧品検査**
防腐剤不活化・生菌数測定用（細菌）

ＳＣＤＬＰ寒天培地「ダイゴ」

Soybean-Casein Digest Agar with Lecithin & Polysorbate 80 》DAIGO《

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】398-00255（500 g）

概 要

本品は、薬発第297号「内用液剤及びＸ線造影剤の菌数の限度及び試験法について」などに別添、医薬品の微生物試験法に収載のレシチン・ポリソルベート80加ソイビーン・カゼイン・ダイジェスト・カンテン培地（SCDLPカンテン培地）に該当する培地で、医薬品・化粧品中に添加された防腐剤を不活化することによって、汚染微生物の増殖を可能にするもので、防腐剤（Quaternary ammonium compounds, Chlorhexidine, Hexachlorophene, Phenolic compounds, Derivatives of benzoic acid, Organometallic tin compounds, その他）を含有する製剤中の一般生菌数（細菌）を測定する目的に使用できる。

組 成（精製水1Ｌ当たり）

カゼイン製ペプトン	15.0 g
ダイズ製ペプトン	5.0 g
塩化ナトリウム	5.0 g
カンテン	15.0 g
レシチン	1.0 g
ポリソルベート80	7.0 g
滅菌後のpH	7.1 ～ 7.5

調 製 法

本品48 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜたのち、90℃以上に加熱し、数分間撹拌し溶解、容器に分注後、121℃で15～20分間高圧蒸気滅菌する。滅菌後、直ちに注意しながらよく振り混ぜ、容器底に沈澱しているポリソルベート層を均一化する。

用 途

・防腐剤を含有する製剤中の一般生菌数（細菌）試験

使 用 期 限

製造後 3年

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので固く密栓し2～10℃に保存すること。

参 考 文 献

1）厚生省薬務局長通知：薬発第297号，昭和51.4.1.
2）石関忠一：日本化粧品技術者連合会会誌７(1), 1, 1971.
化粧品の微生物汚染とその検査法について.
3）岩原繁雄：医薬品研究3(4), 444, 1972.
医薬品・化粧品の微生物汚染試験法(第１報).
4）石関忠一：医薬品研究４(1),56,1973.
医薬品・化粧品の微生物汚染試験法（第２報）.
5）C.W.Bruch:Drug & Cosmetic Industry,110(6),32,1972.
Possible modifications of USP Microbial Limits and Tests.
6）S.Robert et al:J. Pharm.Sci.,52(10),967,1963.
Effectiveness of antibacterial agents presently employed in ophthalmic preparation as preservatives against pseudomonas aeruginosa.
7）石関忠一：医薬品研究4(2), 1973.
医薬品・化粧品の微生物汚染試験法(第３報).
8）石関忠一他：衛生試験所報告第91号，1973.
防腐剤に関する研究、とくにポリソルベート80及びレシチンによる不活化作用について.

一般細菌検査用 **医薬品・化粧品検査**
防腐剤不活化・生菌数測定用（細菌）

ＳＣＤＬＰ培地「ダイゴ」

Soybean-Casein Digest Broth with Lecithin & Polysorbate 80 》DAIGO《

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】395-00265（500 g）

概 要

本品は、薬発第297号「内用液剤及びＸ線造影剤の菌数の限度及び試験法について」などに別添、医薬品の微生物試験法に収載のレシチン・ポリソルベート80加ソイビーン・カゼイン・ダイジェスト・ブロス培地（SCDLP液状培地）に該当する培地で、医薬品・化粧品中に添加された防腐剤を不活化することによって、汚染微生物の増菌を可能にするもので、防腐剤（Quaternary ammonium compounds, Chlorhexidine，Hexachlorophene, Phenolic compounds, Derivatives of benzoic acid, Organometallic tin compounds, その他）を含有する製剤中の一般生菌数（細菌）の測定及び大腸菌群、サルモネラ、ブドウ球菌、緑膿菌等を増菌する目的に使用できる。

組 成（精製水1Ｌ当たり）

カゼイン製ペプトン	17.0 g
ダイズ製ペプトン	3.0 g
塩化ナトリウム	5.0 g
リン酸水素二カリウム	2.5 g
ブドウ糖一水和物	2.5 g
レシチン	1.0 g
ポリソルベート80	7.0 g
滅菌後のpH	6.8 ～ 7.2

調 製 法

本品37.8 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜたのち、90℃以上に加熱し、数分間撹拌し溶解、容器に分注後、121℃で15～20分間高圧蒸気滅菌する。滅菌後、直ちに注意しながらよく振り混ぜ、容器底に沈澱しているポリソルベート層を均一化する。

用 途

・防腐剤を含有する製剤中の一般生菌数（細菌）試験
・大腸菌群、サルモネラ、ブドウ球菌、緑膿菌等の増菌

使 用 期 限

製造後 3年

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので固く密栓し2～10℃に保存すること。

参 考 文 献

1）厚生省薬務局長通知：薬発第297号，昭和51.4.1.
2）石関忠一：日本化粧品技術者連合会会誌７(1), 1, 1971.
化粧品の微生物汚染とその検査法について.
3）岩原繁雄：医薬品研究3(4), 444, 1972.
医薬品・化粧品の微生物汚染試験法(第１報).
4）石関忠一：医薬品研究４(1),56,1973.
医薬品・化粧品の微生物汚染試験法（第２報）.
5）C.W.Bruch:Drug & Cosmetic Industry,110(6),32,1972.
Possible modifications of USP Microbial Limits and Tests.
6）S.Robert et al:J. Pharm.Sci.,52(10),967,1963.
Effectiveness of antibacterial agents presently employed in ophthalmic preparation as preservatives against pseudomonas aeruginosa.
7）石関忠一：医薬品研究4(2), 175, 1973.
医薬品・化粧品の微生物汚染試験法（第３報）.
8）石関忠一他：衛生試験所報告第91号，1973.
防腐剤に関する研究、とくにポリソルベート80及びレシチンによる不活化作用について.

一般細菌検査用
製造ライン無菌試験用

ＳＣＤ濃縮液体培地「ダイゴ」

Soybean-Casein Digest Paste
》DAIGO《

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】392-00817（12.5kg）

概 要

本品は、ペースト状のSCD培地で用時希釈して、無菌食品製造や、医薬品の注射剤ラインの無菌性をチェックする培地である。

組 成（１缶［12.5kg］当たり［60%溶液］）

カゼイン製ペプトン	4,250.0 g
ダイズ製ペプトン	750.0 g
リン酸水素二カリウム	625.0 g
ブドウ糖一水和物	625.0 g
塩化ナトリウム	1,250.0 g
精製水	5,000.0 g
調製後のpH	7.1 ～ 7.5

調 製 法

本品1缶（12.5 kg）を精製水に加え全量250～500 L に調製する。
本調製液を通常の製造手順にしたがい、無菌充てんライン（タンク等）に流し小分け、閉栓等の最終工程を経た充てん品を30～35℃で72時間培養し菌の有無を検査する。

特 徴

１）医薬品の無菌試験に用いられている増殖性能の高い培地である
２）ペースト状で、水になじみ易く、短時間で完全澄明に溶ける
３）調製時の粉塵がなく、環境にも悪影響を与えない

使 用 例

１）無菌充てんラインの組立作業後のテストライン及び定期的な点検時に使用する
２）設備や装置の改造後に使用する
３）滅菌装置の連続的作動性のチェックに使用する
４）ラインの定期的な点検

注 意 事 項

本品は、着色し易いため、2～10℃に保存すること。
尚、納品後6カ月以内に使用し、開栓後は速やかに使用すること。

腸内細菌検査用
サルモネラ前培養用

ＥＥＭブイヨン培地「ダイゴ」

Enterobacteriaceae Enrichment
Mannitol Broth 》DAIGO《

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】390-00391（300 g）

概 要

本品は、食品のサルモネラ増菌の際に行う前培養用の粉末培地である。

組 成（精製水1Ｌ当たり）

ペプトン	10.0 g
牛胆汁末	20.0 g
Ｄ－マンニット	5.0 g
リン酸水素二ナトリウム	6.5 g
リン酸二水素カリウム	2.0 g
ブリリアントグリン	13.5 mg
調製後のpH	7.0 ～ 7.4

調 製 法

本品43.5 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜたのち、適当な容器に分注後、100℃で30分間加熱溶解し、すみやかに冷却する。なお、高圧蒸気滅菌及び過熱をさける。

用 途

・食品のサルモネラ増菌の際に行う前培養

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓すること。室温保存。

参 考 文 献

１）日本食品衛生協会：食品衛生検査指針、微生物編、2004.
２）石関忠一：医薬品研究４(1),56,1973.
医薬品・化粧品の微生物汚染試験法（第２報）.

腸内細菌検査用
サルモネラ・アリゾナ増菌用

ハーナ・テトラチオン酸塩基礎培地「ダイゴ」

Hajna Tetrathionate Broth Base》DAIGO《

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】390-00411（300 g）

概 要

本品は、Hajnaらが1956年に発表した組成に準拠し、サルモネラ及びアリゾナの増菌を目的とする粉末培地であり、食品、医薬品などに利用できる。但し、腸チフス症の原因となるサルモネラなどの増菌には適さない。

組 成（精製水１Ｌ当たり）

ペプトン	18.0 g
酵母エキス	2.0 g
ブドウ糖	0.5 g
Ｄ－マンニット	2.5 g
塩化ナトリウム	5.0 g
デソキシコール酸ナトリウム	0.5 g
沈降炭酸カルシウム	25.0 g
チオ硫酸ナトリウム	26.0 g
ブリリアントグリン	10 mg
調製後のpH	7.2 ～ 7.6

調 製 法

本品80 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜたのち、加温溶解する。45°C以下に冷却しヨード溶液※40 mLを加えてよく混和し、沈澱物が均等になるように振りながら滅菌試験管に約10 mLずつ分注する。
高圧蒸気滅菌及び過熱をさけ、培地調製後はその日のうちに使用する。
※〔ヨード溶液の調製〕
ヨウ化カリウム8 gを精製水40 mLに完全に溶解したのち、さらにヨウ素5 gを加えて溶解する。

用 途

・食品、医薬品の検査
・サルモネラ及びアリゾナの増菌

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓すること。室温保存。

参 考 文 献

1）A.A Hajna et al:Appl.Microbiol.,4,341,1956.
New enrichment and plating media for the isolation of salmonella and shigella organisms.
2）石関忠一：医薬品研究４(1),56,1973.
医薬品・化粧品の微生物汚染試験法（第２報）.
3）日本公衆衛生協会：微生物検査必携　細菌・真菌検査　第３版
各論12培地一覧，1987.

腸内細菌検査用
サルモネラ・シゲラ分離用

ＤＨＬ寒天培地「ダイゴ」

Desoxycholate-Hydrogen Sulfide-Lactose Agar》DAIGO《

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】395-00461（300 g）

概 要

本品は、坂崎ら（1960）がデスオキシコレートカンテン培地を改良し、腸内細菌とくにサルモネラ、シゲラ、アリゾナの検出を容易にした粉末培地で、食品、医薬品、化粧品などに利用できる。

組 成（精製水1Ｌ当たり）

肉エキス	3.0 g
ペプトン	20.0 g
乳糖一水和物	10.0 g
白糖	10.0 g
胆汁酸塩	1.0 g
チオ硫酸ナトリウム	2.5 g
クエン酸ナトリウム	1.0 g
クエン酸アンモニウム鉄（III）	1.0 g
ニュートラルレッド	30 mg
カンテン	15.0 g
溶解後のpH	6.8 ～ 7.2

調 製 法

本品64 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜたのち、加温溶解する。

用 途

・食品、医薬品、化粧品の検査
・サルモネラ、シゲラ、アリゾナの検出
・サルモネラ、アリゾナ及びシトロバクターは産生した硫化水素とクエン酸鉄アンモニウムにより、褐色ないし黒色の集落をつくる
・シゲラは無色、透明ないし半透明で他の分離培地よりやや大きい集落をつくる
・プロテウスや乳糖及び白糖分解菌は淡紅色の集落をつくる

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓すること。室温保存。

参 考 文 献

1）R.Sakazaki et al:Jap.J.Exp.Med.,30 13,1960.
A problem on the pathogenic role of citrobacter of enteric bacteria.
2）岩原繁雄：医薬品研究3(4), 444, 1972.
医薬品・化粧品の微生物汚染試験法(第１報).
3）石関忠一：医薬品研究４(1),56,1973.
医薬品・化粧品の微生物汚染試験法（第２報）.
4）日本公衆衛生協会：微生物検査必携　細菌・真菌検査　第３版
各論12培地一覧，1987.
5）日本公衆衛生協会：微生物検査必携　細菌・真菌検査
第二版　腸内細菌およびビブリオ用培地 P536,1978.

腸内細菌検査用
サルモネラ・シゲラ分離用

ＸＬＤ寒天培地「ダイゴ」

Xylose-Lysine-Desoxycholate Agar
》DAIGO《

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】397-00421（300 g）

概 要

本品は、Taylorが1965年に考案したＸＬ培地にデソキシコール酸ナトリウムを加えたサルモネラ及びシゲラの分離を目的とする粉末培地である。

組 成（精製水１Ｌ当たり）

酵母エキス	3.0 g
乳糖一水和物	7.5 g
白糖	7.5 g
キシロース	3.5 g
Ｌ－リジン	5.0 g
塩化ナトリウム	5.0 g
フェノールレッド	80 mg
デソキシコール酸ナトリウム	2.5 g
カンテン	13.5 g
チオ硫酸ナトリウム	6.8 g
クエン酸アンモニウム鉄（III）	0.8 g
沸騰後のpH	6.9 ～ 7.3

調 製 法

本品55 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜ、沸騰するまで加熱する。なお、高圧蒸気滅菌及び過熱をさける。

用 途

・食品、医薬品の検査
・サルモネラ及びシゲラの分離

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓すること。室温保存。

参 考 文 献

1）W.I.Taylor:Am.J.Clin.Path., 44(4), 471, 1965.
Isolation of shigellae (Ⅰ).Xylose lysine agars;
New media for isolation of enteric pathogens.
2）W.I.Taylor et al:Am.J.Clin.Path., 44(4), 476, 1965.
Isolation of shigellae (Ⅱ).Comparison of plating media
and enrichment broths.
3）米国薬局方:Microbiological Tests.
4）石関忠一：医薬品研究４(1),56, 1973.
医薬品・化粧品の微生物汚染試験法（第２報）.
5）日本公衆衛生協会：微生物検査必携　細菌・真菌検査　第３版
各論12　培地一覧，1987.

腸内細菌検査用
サルモネラ増菌用

セレナイト・シスチン基礎培地「ダイゴ」

Selenite-Cystine Broth Base
》DAIGO《

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】396-02211（300 g）

概 要

本品は、Leifsonのセレナイト培地を改良したものです。L-シスチンは、サルモネラに対する亜セレン酸の毒性を中和し、サルモネラの回復を助ける。

組 成（精製水1Ｌ当たり）

ゼラチン製ペプトン	5.0 g
乳糖一水和物	4.0 g
リン酸三ナトリウム十二水和物	10.0 g
Ｌ－シスチン	10 mg
（亜セレン酸ナトリウム）	（4.0 g）
溶解後のpH	6.8 ～ 7.2

調 製 法

本品19 gと亜セレン酸ナトリウム４gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜたのち、加温溶解する。滅菌してはならない。

用 途

・食品、医薬品の検査
・サルモネラの増菌

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓すること。室温保存。

参 考 文 献

1）日本食品衛生協会：食品衛生検査指針、微生物編、2004.
2）石関忠一：医薬品研究４(1),56,1973.
医薬品・化粧品の微生物汚染試験法（第２報）.

腸内細菌検査用
サルモネラ増菌用

テトラチオネート培地「ダイゴ」

Fluid Tetrathionate Medium
》DAIGO《

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】393-02221（300 g）

概要

本品は、サルモネラ選択増菌用培地であり、チオ硫酸塩とテトラチオン酸塩の作用により大腸菌群を抑制するが、サルモネラはテトラチオン酸塩を還元して発育することが可能であるため、他の大腸菌群の存在下であってもサルモネラを選択的に増菌することができる。

組成（精製水１Ｌ当たり）

カゼイン製ペプトン	2.5 g
肉製ペプトン	2.5 g
デソキシコール酸ナトリウム	1.0 g
炭酸カルシウム	10.0 g
チオ硫酸ナトリウム五水和物	30.0 g

調製法

本品46 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜたのち煮沸する。使用当日にヨウ素・ヨウ化カリウム溶液（ヨウ素6 gとヨウ化カリウム5 g／20 mL）と滅菌ブリリアントグリン溶液（1→1000）10mLを混和する。混和後は熱を加えてはならない。

用途

・食品、医薬品の検査
・サルモネラの増菌

注意事項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓すること。室温保存。

参考文献

1）日本食品衛生協会：食品衛生検査指針、微生物編、2004.
2）石関忠一：医薬品研究 4 (1),56,1973.
医薬品・化粧品の微生物汚染試験法（第２報）.

腸内細菌検査用
サルモネラ分離用

ブリリアントグリン寒天培地「ダイゴ」

Brilliant Green Agar Medium
》DAIGO《

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】390-02231（300 g）

概要

本品は、Kristensenらが1925年に考案し、Kauffmannが1935年に発表した組成に準拠し、チフス菌及びパラチフス菌を除くサルモネラの分離、確認を目的とした粉末培地であり、食品、医薬品などに利用できる。

組成（精製水1Ｌ当たり）

ペプトン（肉製及びカゼイン製）	10.0 g
酵母エキス	3.0 g
塩化ナトリウム	5.0 g
乳糖一水和物	10.0 g
白糖	10.0 g
フェノールレッド	80 mg
ブリリアントグリン	12.5 mg
カンテン	20.0 g
滅菌後のpH	6.7 ～ 7.1

調製法

本品58 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜたのち、1分間煮沸する。使用直前に確認されたサイクルで高圧蒸気滅菌する。約50°Cに冷却後シャーレに分注する。

用途

・食品、医薬品の検査
・サルモネラの分離

注意事項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓すること。室温保存。

参考文献

1）日本食品衛生協会：食品衛生検査指針、微生物編、2004.
2）石関忠一：医薬品研究 4 (1),56,1973.
医薬品・化粧品の微生物汚染試験法（第２報）.

腸内細菌検査用
サルモネラ分離用

亜硫酸ビスマス寒天培地「ダイゴ」

Bismuth Sulfite Agar
》DAIGO《

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】397-02241（300 g）

概 要

本品は、サルモネラの分離、確認を目的とした粉末培地であり、食品、医薬品などに利用できる。

組 成（精製水１Ｌ当たり）

肉エキス	5.0 g
カゼイン製ペプトン	5.0 g
肉製ペプトン	5.0 g
ブドウ糖	5.0 g
リン酸三ナトリウム十二水和物	4.0 g
硫酸鉄（Ⅱ）七水和物	0.3 g
亜硫酸ビスマス・インジケーター	8.0 g
ブリリアントグリン	25 mg
カンテン	20.0 g
沸騰後のpH	7.4 ～ 7.8

調 製 法

本品52.3 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜたのち、煮沸溶解する。高圧蒸気滅菌をしてはならない。過剰な加熱は避けること。約50°Cに冷却後シャーレに分注する。

用 途

・食品、医薬品の検査
・サルモネラの分離

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓すること。室温保存。

参 考 文 献

1）日本食品衛生協会：食品衛生検査指針、微生物編、2004.
2）石関忠一：医薬品研究 4 (1),56,1973.
医薬品・化粧品の微生物汚染試験法（第２報）.

腸内細菌検査用
サルモネラ分離用

ＴＳＩ寒天培地「ダイゴ」

Triple Sugar Iron Agar
》DAIGO《

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】394-02251（300 g）

概 要

本品は、Hajna、（1945）によって考えだされた培地であり、腸内細菌のブドウ糖、乳糖及び白糖の分解性、ブドウ糖からのガス産生性並びに硫化水素産生性の検査を目的としている。

組 成（精製水1Ｌ当たり）

カゼイン製ペプトン	10.0 g
肉製ペプトン	10.0 g
乳糖一水和物	10.0 g
白糖	10.0 g
ブドウ糖	1.0 g
硫酸アンモニウム鉄（Ⅱ）六水和物	0.2 g
塩化ナトリウム	5.0 g
チオ硫酸ナトリウム五水和物	0.2 g
フェノールレッド	25 mg
カンテン	13.0 g
滅菌後のpH	7.1 ～ 7.5

調 製 法

本品59.4 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜたのち、煮沸溶解し、容器に分注後確認されたサイクルで高圧蒸気滅菌する。斜面カンテン培地として使用する。

用 途

・食品、医薬品の検査
・ブドウ糖、乳糖および白糖の発酵、ガス産生並びに硫化水素産生による腸内細菌の鑑別

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓し，2～10°Cに保存すること。

参 考 文 献

1）日本食品衛生協会：食品衛生検査指針、微生物編、2004.
2）石関忠一：医薬品研究 4 (1),56,1973.
医薬品・化粧品の微生物汚染試験法（第２報）.

大腸菌・大腸菌群検査用
下水道水質検査用

ColiSpect R/B

ColiSpect R/B

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】395-02281（150 g）

概要

本培地は、食品や下水処理場放流水などに含まれる大腸菌・大腸菌群を正確かつ再現性良く検出・計数することを目的とした検査培地である。大腸菌は青~青紫色に、大腸菌群（及び一部の大腸菌）は赤~赤紫色に呈色する。

組成（精製水１Ｌ当たり）

ペプトン	10.0 g
ピルビン酸ナトリウム	1.0 g
L-トリプトファン	1.0 g
D-ソルビトール	1.0 g
塩化ナトリウム	5.0 g
リン酸二水素ナトリウム	2.2 g
リン酸一水素ナトリウム	2.7 g
硝酸カリウム	1.0 g
ラウリル硫酸ナトリウム	0.2 g
X-GLUC	0.1 g
MAGENTA-GAL	0.1 g
カンテン	15.0 g
滅菌後のpH	6.8 ～ 7.0

調製法

本品39.3gを精製水１Ｌに加えてよく振り混ぜたのち、加温溶解し、確認されたサイクルで高圧蒸気滅菌する。

用途

・食品中の大腸菌、大腸菌群の検出、計数
・環境中の大腸菌、大腸菌群の検出、計数

試験菌株

Escherichia coli NBRC 3972　*Enterobacter cloacae* NBRC 3320
Klebsiella aerogenes NBRC 12059　*Citrobacter freundii* NBRC 12681
Pseudomonas aeruginosa NBRC 13275
Staphylococcus aureus NBRC 13276　*Bacillus subtilis* NBRC 3134

使用期限

製造後 3年

注意事項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓すること。室温保存。

参考文献

1） 食品衛生検査指針 微生物編 (2018)
2） 下水道法施行令
3） 水質汚濁防止法施行令
4） 建築基準法施行令
5） 下水の水質の検定方法等に関する省令（昭和三十七年厚生省・建令第 一号）

大腸菌（群）検査用
大腸菌群増菌用

乳糖ブイヨン培地「ダイゴ」

Lactose Broth
》DAIGO《

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】397-00301（300 g）

概要

本品は、薬発第297号「内用液剤及びX線造影剤の菌数の限度及び試験法について」などに収載されている乳糖ブイヨン培地に準拠して調製した大腸菌群の増菌・確認を目的とする粉末培地であり、その他の菌の乳糖分解試験にも利用できる。

組成（精製水１Ｌ当たり）

肉エキス	3.0 g
ペプトン	10.0 g
乳糖	5.0 g
ブロムチモールブルー	24 mg
滅菌後のpH	7.0 ～ 7.4

調製法

本品18 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜたのち、加温溶解し、使用目的に応じてダーラム管入試験管または発酵管に分注し、121℃で15～20分間高圧蒸気滅菌後すみやかに冷却する。

用途

・医薬品、食品、水、その他の材料の検査
・大腸菌群の増菌・確認
・乳糖分解試験
・大腸菌群が本培地に発育するときは培地色調が黄色となり、ガスを産生する

注意事項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓すること。室温保存。

参考文献

1）厚生省薬務局長通知：薬発第297号，昭和51.4.1.
2）石関忠一：医薬品研究４(1),56, 1973.
医薬品・化粧品の微生物汚染試験法（第２報）.
3）日本食品衛生協会：食品衛生検査指針、微生物編、2004.
4）日本水道協会：上水試験方法、2011.

大腸菌（群）検査用
大腸菌群増菌用

乳糖ブイヨン「ダイゴ」日局16処方

Fluid Lactose Medium
》DAIGO《 for JP16 Prescription

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】396-02191（300 g）

概 要

本品は、日局16に収載されていた乳糖ブイヨンと同一組成の培地である。
大腸菌群の増菌・確認を目的とする粉末培地である。

組 成（精製水1 L 当たり）

肉エキス	3.0 g
ゼラチン製ペプトン	5.0 g
乳糖一水和物	5.0 g
滅菌後のpH	6.7 ～ 7.1

調 製 法

本品13 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜたのち、加温溶解し、容器に分注後確認されたサイクルで高圧蒸気滅菌する。滅菌後はできるだけ速やかに冷却する。

用 途

・医薬品、食品、水、その他の材料の検査
・大腸菌群の増菌・確認
・乳糖分解試験

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓すること。室温保存。

参 考 文 献

1）厚生省薬務局長通知：薬発第297号，昭和51.4.1.
2）石関忠一：医薬品研究 4 (1),56, 1973.
医薬品・化粧品の微生物汚染試験法（第２報）.
3）日本食品衛生協会：食品衛生検査指針、微生物編、2004.
4）日本水道協会：上水試験方法、2011.

大腸菌（群）検査用
大腸菌群分離用

デスオキシコレート寒天培地「ダイゴ」

Desoxycholate Agar
》DAIGO《

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】395-00341（300 g）

概 要

本品は、薬発第297号「内用液剤及びＸ線造影剤の菌数の限度及び試験法について」の別添、医薬品の微生物試験法に収載されているデスオキシコレート・カンテン培地に準拠して調製した大腸菌群分離を目的とする粉末培地であり、食品にも利用できる。

組 成（精製水１Ｌ当たり）

ペプトン	10.0 g
乳糖	10.0 g
デソキシコール酸ナトリウム	1.0 g
塩化ナトリウム	5.0 g
リン酸水素二カリウム	2.0 g
クエン酸アンモニウム鉄（III）	2.0 g
ニュートラルレッド	33 mg
カンテン	16.0 g
溶解後のpH	7.0 ～ 7.4

調 製 法

本品46 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜたのち、加温溶解する。
滅菌及び過熱を避け、培地調製後はその日のうちに使用する。

用 途

・医薬品、食品の検査
・大腸菌の分離
・大腸菌群は淡紅色の集落をつくり、その周辺にデソキシコール酸の析出を認める。プロテウスは遊走を抑制されて中心部が赤色の孤立集落をつくり、病原腸内細菌は無色透明の集落をつくる

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓し、2～10℃に保存すること。

参 考 文 献

1）厚生省薬務局長通知：薬発第297号，昭和51.4.1.
2）石関忠一：医薬品研究 4 (1),56, 1973.
医薬品・化粧品の微生物汚染試験法（第２報）.
3）日本水道協会：上水試験方法、2011.
4）E.Leifson:J.Path. & Bact., 40,581,1935.
New culture media based on sodium desoxycholate for the isolation of intestinal pathogens and for the enumeration of colon bacilli in milk and water.
5）D.J.Hentges:Am.J.Clin.Path., 38(3),304,1962.
A simplified plating technic for bacteriologic examination of specimens of urine.
6）日本食品衛生協会：食品衛生検査指針、微生物編、2004.

大腸菌（群）検査用
大腸菌群検査用

ＢＧＬＢ培地「ダイゴ」

Brilliant Green-Lactose-Bile Broth
》DAIGO《

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】398-00451（300 g）

概 要

本品は、日本食品衛生協会・食品衛生検査指針に収載されているBGLB培地に準拠した乳、乳製品、各種食品及び飲料水などの大腸菌群検査、またMPN法による大腸菌群数測定を目的とする粉末培地である。

組 成（精製水1Ｌ当たり）

ペプトン	10.0 g
乳糖	10.0 g
牛胆汁末	20.0 g
ブリリアントグリン	13.3 mg
滅菌後のpH	7.0 ～ 7.4

調 製 法

本品40 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜたのち、加温溶解し、使用目的に応じてダーラム管入試験管または発酵管に分注し、121℃で15～20分間高圧蒸気滅菌する。

用 途

・乳、乳製品、各種食品及び飲料水などの大腸菌群検査、またMPN法による大腸菌群数測定

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓すること。室温保存。

参 考 文 献

1）日本食品衛生協会：食品衛生検査指針、微生物編、2004.
2）日本水道協会：上水試験方法、2011.

大腸菌（群）検査用
大腸菌検査用

ＥＣ培地「ダイゴ」

Escherichia Coli Broth
》DAIGO《

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】392-00471（300 g）

概 要

本品は、大腸菌群中の大腸菌（E.coli）の選択培養を目的とする粉末培地で、水や食品などに利用できる。

組 成（精製水１Ｌ当たり）

ペプトン	20.0 g
乳糖一水和物	5.0 g
牛胆汁末	1.5 g
リン酸水素二カリウム	4.0 g
リン酸二水素カリウム	1.5 g
塩化ナトリウム	5.0 g
滅菌後のpH	6.7 ～ 7.1

調 製 法

本品37 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜたのち、加温溶解し、ダーラム管入試験管または発酵管に約10 mL分注し、121℃で15～20分間高圧蒸気滅菌する。

用 途

・水や食品などの検査
・大腸菌群中の大腸菌（E.coli）の選択培養
・大腸菌はガス産生を認める

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓すること。室温保存。

参 考 文 献

1）A.A.Hajna et al:Am.J.Pub.Health.,33,550,1943.
Comparative study of presumptive and confirmative media for bacteria of the coliform group and for fecal streptococci.
2）生物学的製剤基準：一般試験法・培地、2004
3）日本水道協会：上水試験方法、2011.
4）日本食品衛生協会：食品衛生検査指針、微生物編、2004.
5）A.D.Tennant et al:Can.J.Microbiol.,7, 733,1961.
Coliform bacteria in sea water and shellfish.
Ⅱ. The E.C.Confirmation test for escherichia coli.

大腸菌（群）検査用
大腸菌群分離用

ＥＭＢ寒天培地「ダイゴ」

Eosin-Methylene Blue Agar Medium
》DAIGO《

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】399-02201（300 g）

概 要

本品は、日局16に収載されていたＥＭＢ寒天培地と同一組成の培地である。大腸菌群の分離・確認を目的とする粉末培地である。

組 成（精製水1Ｌ当たり）

ゼラチン製ペプトン	10.0 g
リン酸水素二カリウム	2.0 g
乳糖一水和物	10.0 g
カンテン	15.0 g
エオシンＹ	0.40 g
メチレンブルー	65 mg
滅菌後のpH	6.9～7.3

調 製 法

本品37.5 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜたのち、加温溶解し、確認されたサイクルで高圧蒸気滅菌する。

用 途

・医薬品、食品、水、その他の材料の検査
・大腸菌群の分離・確認

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓すること。室温保存。

参 考 文 献

1）日本食品衛生協会：食品衛生検査指針、微生物編、2004.
2）石関忠一：医薬品研究４(1),56,1973.
医薬品・化粧品の微生物汚染試験法（第２報）.

食品中の生菌数測定用
生菌数測定用

標準寒天培地「ダイゴ」

Standard Methods Agar
》DAIGO《

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】393-00381（300 g）

概 要

本品は、日本食品衛生協会・食品衛生検査指針、日本薬学会編・衛生試験法注解等に収載されている標準寒天培地に準拠して調製したもので、各種食品とその原料及び飲料水などの生菌数測定を目的とする粉末培地である。

組 成（精製水１Ｌ当たり）

カゼイン製ペプトン	5.0 g
酵母エキス	2.5 g
ブドウ糖	1.0 g
カンテン	15.0 g
滅菌後のpH	6.9 ～7.1

調 製 法

本品23.5 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜたのち、加温溶解し、適当な容器に分注後、121℃で15～20分間高圧蒸気滅菌する。

用 途

・各種食品と、その原料及び飲料水などの生菌数測定

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓すること。室温保存。

参 考 文 献

1）日本食品衛生協会：食品衛生検査指針、微生物編、2004.
2）日本薬学会偏：衛生試験法注解、2005
3）第十九改正日本薬局方（2026）
4）日本水道協会：上水試験方法、2011.

真菌検査用
生菌数測定用（真菌）

ＧＰ寒天培地「ダイゴ」

Glucose-Peptone Agar Medium
》DAIGO《

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】399-02181（300 g）

概 要

本品は、日局16に収載されていたGP寒天培地と同一の培地である。医薬品、食品中の一般生菌数（真菌）を測定する目的に使用できる。

組 成（精製水1Ｌ当たり）

ブドウ糖	20.0 g
酵母エキス	2.0 g
硫酸マグネシウム七水和物	0.5 g
ペプトン	5.0 g
リン酸二水素カリウム	1.0 g
カンテン	15.0 g
滅菌後のpH	5.6 ～ 5.8

調 製 法

本品43.3 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜたのち、加温溶解し、容器に分注後121℃で15～20分間高圧蒸気滅菌する。抗生物質添加GPカンテン培地として使用する場合は、使用直前にベンジルペニシリンカリウム0.10 gとテトラサイクリン0.10 gを滅菌溶液として加える。ベンジルペニシリンカリウムとテトラサイクリンの代わりに培地１Ｌ当たりクロラムフェニコール50 mgを加えてもよい。

用 途

・医薬品、化粧品などの一般生菌数試験（真菌）

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓し、2～10℃に保存すること。

参 考 文 献

1）日本食品衛生協会：食品衛生検査指針、微生物編、2004.
2）石関忠一：医薬品研究４(1),56,1973.
医薬品・化粧品の微生物汚染試験法（第２報）.

真菌検査用　**医薬品・化粧品検査**
防腐剤不活化　生菌数測定用（真菌）

ＧＰＬＰ寒天培地「ダイゴ」

Glucose Peptone Agar with
Lecithin & Polysorbate 80 》DAIGO《

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】394-00235 （500 g）

概 要

本品は、GP寒天培地にレシチン、ポリソルベート80を加えた培地で、医薬品および化粧品中に添加された防腐剤を不活化することによって汚染微生物の増殖を可能にするもので、防腐剤（Quaternary ammonium compounds, Chlorhexidine, Hexachlorophene, Phenolic compounds, Derivatives of benzoic acid, Organometallic tin compounds, その他）を含有する製剤中の真菌を検出する目的に使用できる。

組 成（精製水１Ｌ当たり）

ブドウ糖	20.0 g
酵母エキス	2.0 g
硫酸マグネシウム七水和物	0.5 g
カゼイン製ペプトン	5.0 g
リン酸二水素カリウム	1.0 g
レシチン	1.0 g
ポリソルベート80	7.0 g
カンテン	15.0 g
滅菌後のpH	5.6 ～ 5.8

調 製 法

本品51.3 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜたのち、90℃以上に加熱し、数分間撹拌して溶解し、容器に分注後、121℃で15～20分間高圧蒸気滅菌する。滅菌後、直ちに注意しながらよく振り混ぜ、容器底に沈澱しているポリソルベート層を均一化する。

用 途

・医薬品、化粧品などの防腐剤を含有する製剤中の一般生菌数（真菌）試験

使 用 期 限

製造後 3年

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓し、2～10℃に保存すること。

参 考 文 献

1）石関忠一：医薬品研究4(2), 175, 1973.
医薬品・化粧品の微生物汚染試験法（第３報）.
2）石関忠一：日本化粧品技術者連合会会誌７(1), 1, 1971.
化粧品の微生物汚染とその検査法について.
3）岩原繁雄：医薬品研究3(4), 444, 1972.
医薬品・化粧品の微生物汚染試験法（第１報）.
4）石関忠一他：衛生試験所報告第91号，1973.
防腐剤に関する研究、とくにポリソルベート80及びレシチンによる不活化作用について.

真菌検査用 **医薬品・化粧品検査**
防腐剤不活化　生菌数測定用（真菌）

ＧＰＬＰ培地「ダイゴ」

Glucose Peptone Broth with
Lecithin & Polysorbate 80》DAIGO《

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】391-00245（500 g）

概 要

本品は、GP培地にレシチン及びポリソルベート80を加えた培地で、化粧品中に添加された防腐剤を不活化することによって汚染微生物の増殖を可能にするもので、防腐剤（Quaternary ammonium compounds Chlorhexidine, Hexachlorophene, Phenolic compounds, Derivatives of benzoic acid, Organometallic tin compounds,その他）を含有する製剤中の一般生菌数（真菌）を測定する目的に使用できる。

組 成（精製水1Ｌ当たり）

ブドウ糖	20.0 g
酵母エキス	2.0 g
硫酸マグネシウム七水和物	0.5 g
カゼイン製ペプトン	5.0 g
リン酸二水素カリウム	1.0 g
レシチン	1.0 g
ポリソルベート80	7.0 g
滅菌後のpH	5.6 ～ 5.8

調 製 法

本品36.3 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜたのち、90℃以上に加熱し、数分間撹拌して溶解し、容器に分注後、121℃で15～20分間高圧蒸気滅菌する。滅菌後、直ちに注意しながら振り混ぜ、容器底に沈澱しているポリソルベート層を均一化する。

用 途

・医薬品、化粧品などの防腐剤を含有する製剤中の一般生菌数（真菌）試験
・真菌の増菌用

使 用 期 限

製造後 3年

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓し、2～10℃に保存すること。

参 考 文 献

1）石関忠一：医薬品研究4(2), 175, 1973.
医薬品・化粧品の微生物汚染試験法（第３報）.
2）石関忠一：日本化粧品技術者連合会会誌７(1), 1, 1971.
化粧品の微生物汚染とその検査法について.
3）岩原繁雄：医薬品研究3(4), 444, 1972.
医薬品・化粧品の微生物汚染試験法（第１報）.
4）石関忠一他：衛生試験所報告第91号，1973.
防腐剤に関する研究、とくにポリソルベート80及びレシチンによる不活化作用について.

真菌検査用 **医薬品・化粧品検査**
防腐剤不活化　生菌数測定用（真菌）

サブロー・ブドウ糖ＬＰカンテン培地「ダイゴ」

Sabouraud-Dextrose Agar with
Lecithin & Polysorbate 80》DAIGO《

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】392-01875（500 g）

概 要

本品は、日本薬局方の一般試験法に収載されているサブロー・ブドウ糖カンテン培地にレシチン及びポリソルベート80を加えた培地で、医薬品及び化粧品中に添加された防腐剤を不活化することによって汚染微生物の増殖を可能にするもので、防腐剤（Quaternary ammonium compounds, Chlorhexidine, Hexachlorophene, Phenolic compounds, Derivatives of benzoic acid, Organometallic tin compounds, その他）を含有する製剤中の真菌を検出する目的に使用できる。

組 成（精製水１Ｌ当たり）

ブドウ糖	40.0 g
ペプトン（肉製及びカゼイン製 1:1）	10.0 g
レシチン	1.0 g
ポリソルベート80	7.0 g
カンテン	15.0 g
滅菌後のpH	5.4 ～ 5.8

調 製 法

本品73.0 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜたのち、90℃以上に加熱し、数分間撹拌して溶解し、容器に分注後、121℃で15～20分間高圧蒸気滅菌する。滅菌後、直ちに注意しながらよく振り混ぜ、容器底に沈澱しているポリソルベート層を均一化する。

用 途

・医薬品、化粧品などの防腐剤を含有する製剤中の一般生菌数（真菌）試験

使 用 期 限

製造後 3年

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓し、2～10℃に保存すること。

参 考 文 献

1）日本薬局方：一般試験法・微生物限度試験法.

真菌検査用　**医薬品・化粧品検査**
防腐剤不活化　生菌数測定用（真菌）

サブロー・ブドウ糖ＬＰ液体培地「ダイゴ」

Sabouraud-Dextrose Broth with Lecithin & Polysorbate 80》DAIGO《

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】399-01885（500 g）

概 要

本品は、日本薬局方の一般試験法に収載されているサブロー・ブドウ糖液体培地にレシチン及びポリソルベート80を加えた培地で、医薬品及び化粧品中に添加された防腐剤を不活化することによって汚染微生物の増殖を可能にするもので、防腐剤（Quaternary ammonium compound, Chlorhexidine, Hexachlorophene, Phenolic compounds, Derivatives of benzoic acid, Organometallic tin compounds,その他）を含有する製剤中の一般生菌数（真菌）を測定する目的に使用できる。

組 成（精製水1Ｌ当たり）

ブドウ糖	20.0 g
ペプトン（肉製及びカゼイン製 1:1）	10.0 g
レシチン	1.0 g
ポリソルベート80	7.0 g
滅菌後のpH	5.4 ～ 5.8

調 製 法

本品38.0 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜたのち、90℃以上に加熱し、数分間撹拌して溶解し、容器に分注後、121℃で15～20分間高圧蒸気滅菌する。滅菌後、直ちに注意しながら振り混ぜ、容器底に沈澱しているポリソルベート層を均一化する。

用 途

・医薬品、化粧品などの防腐剤を含有する製剤中の一般生菌数（真菌）試験
・真菌の増菌用

使 用 期 限

製造後 3年

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓し、2～10℃に保存すること。

参 考 文 献

1）日本薬局方：一般試験法・微生物限度試験法.

従属栄養細菌検査用　**水棲細菌等**

R2A寒天培地「ダイゴ」

R2A Agar》DAIGO《

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】396-01611（300 g）

概 要

本培地は、上水道試験法に収載されている貧栄養な水環境に生息する微生物の検出培地である。水環境にあわせ、有機栄養分を抑えた組成となっており、高栄養培地で回収できない従属栄養細菌の生菌数測定が可能です。

組 成（精製水１Ｌ当たり）

ペプトン	0.5 g
酵母エキス	0.5 g
カザミノ酸	0.5 g
ブドウ糖	0.5 g
溶性デンプン	0.5 g
リン酸水素二カリウム	0.3 g
硫酸マグネシウム七水和物	0.05 g
ピルビン酸ナトリウム	0.3 g
カンテン	15.0 g
滅菌後のpH	7.0 ～ 7.4

調 製 法

本品18.2 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜたのち、121℃で15～20分間高圧蒸気滅菌する。

用 途

・水棲細菌等の従属栄養細菌の生菌数測定

試 験 菌 株

Methylobacterium extoquens NBRC 15911
Pseudomonas fluorescens NBRC 15842

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓すること。室温保存。

参 考 文 献

1）第十九改正日本薬局方　参考情報　製薬用水の品質管理　2021.
2）佐々木次雄他：医薬品研究　Vol.35,No.12
製薬用水中の微生物評価培地R2A培地に関する研究.
3）田中憲志：Bokin Boubai Vol.33,No.11
R2A培地の培地性能試験と水棲細菌数測定への適用.
4）日本水道協会：上水試験方法、2011.

従属栄養細菌検査用
水棲細菌等

R2A培地「ダイゴ」

R2A Broth 》DAIGO《

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】395-01681（300 g）

概 要

本品は、R2A寒天培地から寒天を除いた培地で、最確数法により製造用水の日常微生物モニタリングが簡便にできます。

組 成（精製水1 L 当たり）

ペプトン	0.5 g
酵母エキス	0.5 g
カザミノ酸	0.5 g
ブドウ糖	0.5 g
溶性デンプン	0.5 g
リン酸水素二カリウム	0.3 g
硫酸マグネシウム七水和物	0.05 g
ピルビン酸ナトリウム	0.3 g
滅菌後のpH	7.0 ～ 7.4

調 製 法

本品3.2 gを精製水1 Lに加えよく振り混ぜたのち、適当な容器に分注後、121℃で15～20分間高圧蒸気滅菌する。

用 途

・水棲細菌等の従属栄養細菌の生菌数測定

試 験 菌 株

Methylobacterium extoquens NBRC 15911
Pseudomonas fluorescens NBRC 15842

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので、固く密栓すること。室温保存。

参 考 文 献

1）田中憲志：Bokin Boubai Vol.33,No.11
R2A培地の培地性能試験と水棲細菌数測定への適用.

その他検査用
カビサイジン配合

抗黴培地「ダイゴ」

Anti Fungus Culture Medium
》DAIGO《

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】390-00151 （50 g）

概 要

抗黴用抗生物質カビサイジン（特許第247306号）を用いて製造した本培地は黴、酵母等の真菌類のみに選択的に繁殖を抑制し、細菌類は繁殖する。したがって黴、酵母等と共存している細菌類の生態を知ることができ、有害細菌のある場合にはすみやかに対策をたてることができるので、黴、酵母等使用する工業等に効果的に利用できる。また自然界から細菌類を分別、分離する研究用としても好適である。

組 成（精製水１Ｌ当たり）

カビサイジン	0.1 g力価
酵母エキス	5.0 g
カゼイン製ペプトン	5.0 g
ブドウ糖	24.0 g
カンテン	15.0 g
リン酸二水素カリウム	0.5 g
塩化カリウム	0.125 g
塩化ナトリウム	0.125 g
塩化カルシウム	0.125 g
硫酸マグネシウム	0.125 g
硫酸第一鉄	1 mg
硫酸マンガン	1 mg
滅菌後のpH	5.5 ～ 5.9

調 製 法

本品50 gを１Lの精製水に溶解し、121℃で10分間または100℃で20分間ずつ３回間けつ滅菌したのち、40～50℃に冷却し、検体を適度に希釈した液を加えて平板培養を行う。なお、生酸菌の場合は、適宜炭酸カルシウムを添加する。

注 意 事 項

・滅菌温度が高すぎたり、または長時間加熱するとカビサイジン（抗生物質）が分解する
・本品は吸湿性が強いので、固く密栓し、冷暗所に保存すること

参 考 文 献

1）特許第247306号.
2）奈良原英樹他：日本醸造協会雑誌64(10),915,1969.
清酒こうじに関する研究（第１報），清酒こうじの酵素と微生物.

標準菌株の復元、維持培養用

NBRC処方

L-乾燥標品復元用培地「ダイゴ」

Media for revival of L-dried specimens
》DAIGO《

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】398-01671 （1セット）

概 要

本品は、標準菌株を購入した際、L-乾燥標品の復元に必要な培地をセットにしたものである。NBRC (注1) の処方に基づき少量をパックにしているので使いやすく、培地調製の手間を省きます。

（注1）独立行政法人　製品評価技術基盤機構
　　バイオテクノロジーセンター

セット内容

・復水液702「ダイゴ」（2 mLアンプル）
・復水液702「ダイゴ」（100 mL用粉末）
・復元培養基802「ダイゴ」（300 mL用粉末）

組 成（精製水1Ｌ当たり）

復水液702	
ペプトン	10.0 g
酵母エキス	2.0 g
硫酸マグネシウム七水和物	1.0 g
滅菌後のpH	6.8～7.2

復元培養基802	
ペプトン	10.0 g
酵母エキス	2.0 g
硫酸マグネシウム七水和物	1.0 g
カンテン	15.0 g
滅菌後のpH	6.8～7.2

調 製 法

復水液702「ダイゴ」（2 mLアンプル）

本品を75%アルコールで消毒した後、注意深く開封する (注2) 。滅菌したパスツールピペットを用いて約0.2 mLを採取し、開封したL-乾燥標品に加える。

（注2）一点カットアンプルを使用しているので、ヤスリを用いずアンプル枝部の青マークの反対方向に折り取ること。

復水液702「ダイゴ」（100 mL用粉末）

本品1.3 g（1袋）を精製水100 mLに加えてよく振り混ぜる。加温溶解後、容器に分注し、121℃で15～20分間高圧蒸気滅菌する。

復元培養基802「ダイゴ」（300 mL用粉末）

本品8.4 g（1袋）を精製水300 mLに加えてよく振り混ぜる。加温溶解後、121℃で15～20分間高圧蒸気滅菌する。

注 意 事 項

粉末培地は吸湿性が強いので、固く密栓すること。室温保存。

カゼインペプトン　【日本薬局方試験 準拠品】
微生物培養基用

ハイポリペプトン「塩谷」

HIPOLYPEPTON
》SHIOTANI《

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】393-02265（500 g）
399-02267（15 kg）

製品特長

・日本薬局方試験に準拠した製品
・溶解性に優れている
・日本国内製造
・安定供給

概要

ハイポリペプトン「塩谷」は、牛乳カゼイン（ニュージーランド産：BSE非発生国）を酵素分解後、精製し、乾燥したペプトンで、日本薬局方試験に準拠した製品である。安定供給の観点から日本国内で製造している。
水に溶けやすく、エタノールまたはエーテルに溶けない。

規格値

総窒素	11%以上
アミノ酸窒素（バンスライク法）	5～7%
強熱残分	10%以下
乾燥減量	6%以下

用途

・日本薬局方及び生物学的製剤基準に収載されている無菌試験用培地の窒素源として最適である。また、衛生試験法における飲料水及び食品衛生検査指針中の微生物試験用培地に使用可能。
・トリプトファンを多量に含有しているため、インドール産生試験に使用すると良好な結果が得られる。
・カゼイン酵素分解ペプトンを必要とするDubos & Middlebrook の結核菌培養、その他各種微生物培養の培地に利用可能。

注意事項

本品は吸湿性があるので、包装形態に合わせ固く密栓又は密閉すること。
室温保存。

参考文献

1）坂崎利一他：新細菌培地学講座・上（第２版）.
培地素材 P115,1986. 近代出版.
2）生物学的製剤基準：一般試験法、2004
3）日本食品衛生協会：食品衛生検査指針、微生物編、2004.
4）水野伝一他：薬局10(8),921,1959.
ペプトン・肉エキス・寒天.
5）水野伝一他：日本細菌学雑誌15(1),114,1960.
培地素材成分の諸問題.
6）R.J.Dubos et al:Am.Rev.Tuber.,56, 334, 1947.
Media for tubercle bacilli.
7）外村健三他：日本醗酵協会誌21(4),129,1963.
麹菌の菌体内α-Amylase について.
（II）燐ペプチッドによるα-アミラーゼの離脱促進作用.
8）山本昭夫他：日本細菌学雑誌24(8)，359,1969.
破傷風トキソイドの副作用に関する研究（I）
培地基材の毒素産生促進効果と感作原性.

大豆ペプトン
微生物培養基用

ハイポリペプトンS

HIPOLYPEPTON S

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】398-02173（300 g）
398-02178（10 kg）

概要

本品は、植物性ペプトンで、脱脂大豆を酵素分解後精製し、乾燥した粉末で、水に溶けやすく、エタノールまたはエーテルに溶けない。

規格値

総窒素	7%以上
アミノ酸窒素（バンスライク法）	3～5%
強熱残分	23%以下
乾燥減量	6%以下

用途

・ハイポリペプトン「塩谷」の性能を補足するとき　に用いる。
・微生物の培養に広く利用され、医真菌、植物病原真菌、サルモネラ、ナイセリア、クロストリジウム等の発育困難な菌の培養に適している。

注意事項

本品は吸湿性があるので、包装形態に合わせ固く密栓又は密閉すること。
室温保存。

参考文献

1）坂崎利一他：新細菌培地学講座・上（第２版），
培地素材 P115,1986. 近代出版.

大豆ペプトン【ハラール・コーシャ認定工場製造】
微生物培養基用

ハイポリペプトンN

HIPOLYPEPTON N

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】397-02121（300 g）
395-02127（10 kg）

概要

本品は、植物性ペプトンで、大豆精製物を微生物由来酵素で分解後精製し、乾燥した粉末で、性能はハイポリペプトン「塩谷」同等である。
※ ハラール・コーシャ認定対応製品は10 kgのみ

規格値

総窒素	12%以上
アミノ酸窒素（バンスライク法）	5～7%
強熱残分	15%以下
乾燥減量	6%以下

用途

非動物性ペプトンで用途はハイポリペプトン「塩谷」及びハイポリペプトンと同様である。

注意事項

本品は吸湿性があるので、包装形態に合わせ固く密栓又は密閉すること。
室温保存。

大豆ペプトン【ハラール・コーシャ認定工場製造】
微生物培養基用

ハイポリペプトンNS

HIPOLYPEPTON NS

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】393-02101（300 g）
391-02107（10 kg）

概要

本品は、植物性ペプトンで、脱脂大豆を微生物由来酵素で分解後精製し、乾燥した粉末で、性能はハイポリペプトンSと同等である。
※ ハラール・コーシャ認定対応製品は20 kg特注品のみ

規格値

総窒素	7%以上
アミノ酸窒素（バンスライク法）	3～5%
強熱残分	23%以下
乾燥減量	9%以下

用途

非動物性ペプトンで用途はハイポリペプトンSと同様である。

注意事項

本品は吸湿性があるので、包装形態に合わせ固く密栓又は密閉すること。
室温保存。

ペプトン（酸分解物）
微生物培養基用

ハイカザミノ酸「ダイゴ」

HICASAMINO ACIDS
》DAIGO《

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】393-02145（500 g）
399-02147（10 kg）

概要

本品は牛乳カゼインの酸分解物でたん白質はほとんどアミノ酸にまで分解されており、たん白質以外の栄養源または発育因子はほとんど含まない。そのため細菌生理学、同遺伝学などの基礎的分野に使用する培地の純窒素源として、あるいはビタミン（とくにB12）の定量用培地における窒素源として用いられ、またミュラー・ヒントン培地のように酵素消化ペプトンの使用が好ましくない培地への栄養源として利用されている。

規格値

総窒素	7%以上
アミノ酸窒素（バンスライク法）	54～83%
強熱残分	52%以下
乾燥減量	8%以下
塩化物（NaCl）	28～40%
ｐH	6～7

注意事項

本品は吸湿性があるので、包装形態に合わせ固く密栓又は密閉すること。
室温保存。

参考文献

1）坂崎利一他：新細菌培地学講座・上（第２版），
培地素材 P115,1986. 近代出版.

酵母エキス
微生物培養基用

粉末酵母エキスD-３H

DRIED YEAST EXTRACT D-3H

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】398-02151（250 g）
396-02157（10 kg）

概要

本品は、酵母の水溶性成分を独自の自己消化法により抽出し、乾燥した淡褐色の粉末で、ビタミン群、各種ミネラル類等を含有している。

規格値

総窒素	10%以上
アミノ酸窒素（バンスライク法）	5%以上
強熱残分	15%以下
乾燥減量	8%以下

用途

・無菌試験用チオグリコール酸培地に発育要素として使用する。
・Bioassayに用いる乳酸菌類の培養に適している。
・牛乳製品あるいは食品の微生物検査用培地に使用する。
・抗生物質発酵等の培養基材に適している。

注意事項

本品は吸湿性があるので、包装形態に合わせ固く密栓又は密閉すること。
室温保存。

参考文献

1）坂崎利一他：新細菌培地学講座・上（第２版），
培地素材 P115,1986. 近代出版.

酵母エキス

微生物培養基用

粉末酵母エキスＦＨ

DRIED YEAST EXTRACT FH

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】393-02167（10 kg）

概 要

本品は、酵母の水溶性成分を独自の自己消化法により抽出し、乾燥した淡褐色の粉末で、ビタミン群、各種ミネラル類等を含有している。

規 格 値

総窒素	10%以上
強熱残分	15%以下
乾燥減量	6%以下
ｐH	5～6

用 途

・無菌試験用チオグリコール酸培地に発育要素として使用する。
・Bioassayに用いる乳酸菌類の培養に適している。
・牛乳製品あるいは食品の微生物検査用培地に使用する。
・抗生物質発酵等の培養基材に適している。

注 意 事 項

本品は吸湿性があるので、固く密閉すること。室温保存。

植物培養用

ムラシゲ・スクーグ培地用

ムラシゲ･スクーグ培地用混合塩類

Murashige and Skoog Plant Salt Mixture

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】392-00591（1 L用×20）
396-02037（10 L用×5）

概 要

本剤は、植物の組織培養用培地として広く用いられているMurashige and Skoog 培地（1962年）処方のうち、基本となる無機塩類をあらかじめ適正に混合した粉末培地である。
本剤に蒸留水を加えるだけでムラシゲ・スクーグ培地用の無機塩類貯蔵液が簡便に調製できるので、培養目的に応じて、糖、アミノ酸、ビタミン類、成長調整物質等とともに植物の組織培養に用いることができる。

組 成（本品1 L用［4.6 g］当たり）

（単位：mg/L）

NH_4NO_3	1,650.0	$ZnSO_4・7H_2O$	8.6
KNO_3	1,900.0	KI	0.83
$CaCl_2・2H_2O$	440.0	$Na_2MoO_4・2H_2O$	0.25
$MgSO_4・7H_2O$	370.0	$CuSO_4・5H_2O$	0.025
KH_2PO_4	170.0	$CoCl_2・6H_2O$	0.025
H_3BO_3	6.2	Na_2-EDTA	37.3
$MnSO_4・4H_2O$	22.3	$FeSO_4・7H_2O$	27.8

調 製 法

1 L用
本品1袋（4.6 g）を蒸留水に加え溶解し、必要に応じて成長調整物質やビタミン等を加えたのち、1 L溶液とし、高圧蒸気滅菌（120℃、15分）して用いる。

10 L用
本品1袋（46 g）を蒸留水に加え溶解し、必要に応じて成長調整物質やビタミン等を加えたのち、10 L溶液とし、高圧蒸気滅菌（120℃、15分）して用いる。

注 意 事 項

室温保存。溶解後は冷蔵保存。
溶解液にはFeイオンの入った水は使用しないこと。

参 考 文 献

1）T.Murashige et al:Physiol.Plant.,15,473,1962.
A revised medium for rapid growth and bio assays with tabacco tissue cultures.

植物培養用

ガンボーグＢ５培地用

ガンボーグＢ５培地用混合塩類

Gamborg's B5 Medium Salt Mixture

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】399-00621（1 L用×20）

概 要

本剤は、植物の組織培養用培地として広く用いられているGamborg's B5培地（1968年）処方のうち、基本となる無機塩類をあらかじめ適正に混合した粉末培地である。
本剤に蒸留水を加えるだけでガンボーグB5培地用の無機塩類貯蔵液が簡便に調製できるので、培養目的に応じて、糖、アミノ酸、ビタミン類、成長調整物質等とともに植物の組織培養に用いることができる。

組 成（本品1 L用［3.3 g］当たり）

（単位：mg/L）

KNO_3	2,500.0	$MnSO_4・H_2O$	10.0
$MgSO_4・7H_2O$	250.0	H_3BO_3	3.0
$NaH_2PO_4・H_2O$	150.0	$ZnSO_4・7H_2O$	2.0
$CaCl_2・2H_2O$	150.0	KI	0.75
$(NH_4)_2SO_4$	134.0	$Na_2MoO_4・2H_2O$	0.25
Na_2-EDTA	37.3	$CuSO_4・5H_2O$	0.025
$FeSO_4・7H_2O$	27.8	$CoCl_2・6H_2O$	0.025

調 製 法

本品1袋（3.3 g）を蒸留水に加え溶解し、必要に応じて成長調整物質やビタミン等を加えたのち、1 L溶液とし、高圧蒸気滅菌（120℃、15分）して用いる。

注 意 事 項

室温保存。溶解後は冷蔵保存。

参 考 文 献

1）O.L.Gamborg et al:Experimental Cell Research 50,151～158(1968)
Nutrient requirements of suspension cultures of soybean root cells.

植物培養用

チュー（Ｎ６）培地用

チュー（Ｎ６）培地用混合塩類

Chu（N6） Medium Salt Mixture

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】391-02021（1 L用×20）
399-02027（10 L用×5）

概 要

本剤はChu,C.C.らによって考案された、主としてイネの葯培養培地として用いられるN6培地処方のうち、基本となる無機塩類を混合した粉末培地である。
本剤に蒸留水を加えるだけでN6培地の無機塩類貯蔵液が簡便に調製できるので、培養目的に応じて、糖、アミノ酸、ビタミン類、成長調整物質等とともに植物の組織培養に用いることができる。

組 成（本品1 L用［4.1 g］当たり）

（単位：mg/L）

KNO_3	2,830.0	$FeSO_4・7H_2O$	27.85
$(NH_4)_2SO_4$	463.0	$MnSO_4・4H_2O$	4.4
KH_2PO_4	400.0	H_3BO_3	1.6
$MgSO_4・7H_2O$	185.0	$ZnSO_4・7H_2O$	1.5
$CaCl_2・2H_2O$	166.0	KI	0.8
Na_2-EDTA	37.25		

調 製 法

1 L用
本品1袋（4.1 g）を蒸留水に加え溶解し、必要に応じて成長調整物質やビタミン等を加えたのち、1 L溶液とし、高圧蒸気滅菌（120℃、15分）して用いる。

10 L用
本品1袋（41 g）を蒸留水に加え溶解し、必要に応じて成長調整物質やビタミン等を加えたのち、10 L溶液とし、高圧蒸気滅菌（120℃、15分）して用いる。

注 意 事 項

室温保存。溶解後は冷蔵保存。
溶解液にはFeイオンの入った水は使用しないこと。

参 考 文 献

1）Chu,C.C., et al:Scientia Sin.18,659～668(1975)
Establishment of an efficient medium for anther culture of rice, through comparative experiments on the nitrogen sources.

微細藻類培養用

海産微細藻類培養用

ダイゴＩＭＫ培地

Daigo's IMK Medium for Marine Microalgae

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】398-01333（100 L用×10）
392-01331（1,000 L用）

概 要

本培地は、多大な微細藻類をできるだけ多く確実に効率よく培養可能とする培地を簡便に調製できるよう、「株式会社 海洋バイオテクノロジー研究所」が開発した海産微細藻類用の培地です。
海水に溶かすだけで、培地の調製が可能なように、全ての要素物質が混合されています。
環境中の微細藻類の分離から大量培養（注）まで広範に利用可能で、海産微細藻類培養、生理学的研究、水産業における種苗生産用の飼料藻類の培養等に便利な培地として設計されています。
（注）珪藻類の高密度培養には、別途珪酸ナトリウム（0.2～1mM）を添加してください。

組 成

（単位：mg/L）

$NaNO_3$	200.0	$CoSO_4・7H_2O$	0.014
Na_2HPO_4	1.4	$Na_2MoO_4・2H_2O$	0.0073
K_2HPO_4	5.0	$CuSO_4・5H_2O$	0.0025
NH_4Cl	2.68	H_2SeO_3	0.0017
Fe-EDTA	5.2	Thiamin-HCl	0.2
Mn-EDTA	0.332	Biotin	0.0015
Na_2-EDTA	37.2	Vitamin B_{12}	0.0015
$ZnSO_4・7H_2O$	0.023	$MnCl_2・4H_2O$	0.18

調 製 法

海水100 L（1,000 L）に本品25.2 g（252 g）を撹拌しながら加え溶解する。
※ pH調整を必要とする場合は、塩酸又は水酸化ナトリウムを用いる。
pHがアルカリ側に傾くと白色沈澱を生ずることがある。
※ ダイゴIMK培地を用いて大量培養や高密度培養を行う場合は、1 Lに対する粉末添加量を増やすことが可能である。
※ IMK培地を人工海水SPに溶解するとき、必ず人工海水SPを溶解した後にIMK培地を溶解してください。

1）滅菌について
・滅菌をしていない培地は、培地調製中に海水または空中の微細藻類が混入し、冷暗所においても微細藻類が発生することがある。
・ダイゴIMK培地には、ビタミン類が調合されているので、培地を滅菌する際には、培養対象のビタミン要求性を考慮して、メンブランフィルターを用いてろ過滅菌する。滅菌後は4℃で保管し、できるだけ早く使用すること。

2）カンテン培地の調製法
ダイゴ人工海水SP（海水）800 mLにダイゴIMK培地252 mgを加え溶解し、滅菌後培地を50℃程度に保つ。別に、蒸留水200 mLにカンテン15 gを加え121℃で15分間高圧蒸気滅菌し、撹拌の後、室温で放置して50℃程度になったら、先に滅菌した培地とよく混合しシャーレに分注する。固化後、冷暗所に保管する。

注 意 事 項

※ 本品は『医薬用外毒物』です
本品は吸湿性が強いので開封後は密閉して保管すること。室温保存。

微細藻類培養用

海産微細藻類培養用

ダイゴ人工海水 ＳＰ

Daigo's Artificial Seawater SP for Marine Microalgae Medium

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】395-01343（1 L用×10）

概 要

生理学的な実験ならびに微細藻類の維持管理に用いる天然海水は、採取後3ヶ月程度冷暗所で保管したものを用いると安定した結果が得られます。天然海水の代わりにダイゴ人工海水SPを用いても、同様の結果が得られます。

本品は、精製水に溶かすだけで組成の明らかな人工海水が出来上がります。

組 成

（単位：mg/L）

$MgCl_2・6H_2O$	9,474.0	LiCl	1.0
$CaCl_2・2H_2O$	1,326.0	KI	0.07
Na_2SO_4	3,505.0	$CoCl_2・6H_2O$	0.0002
KCl	597.0	$AlCl_3・6H_2O$	0.008
$NaHCO_3$	171.0	$FeCl_3・6H_2O$	0.005
KBr	85.0	$Na_2WO_4・2H_2O$	0.0002
$Na_2B_4O_7・10H_2O$	34.0	$(NH_4)_6Mo_7O_{24}・4H_2O$	0.02
$SrCl_2$	12.0	$MnCl_2・4H_2O$	0.0008
NaF	3.0	NaCl	20,747.0

調 製 法

蒸留（精製）水1 Lに本品36 gを撹拌しながら加え溶解し、メンブランフィルターで除菌ろ過をして使用する。

注 意 事 項

本品は吸湿性が強いので開封後は密閉して保管すること。室温保存。

参 考 文 献

1）Chu,C.C., et al:Scientia Sin.18,659～668(1975)
Establishment of an efficient medium for anther culture of rice, through comparative experiments on the nitrogen sources.

遺伝子工学用　　大腸菌用

ＬＢ培地「ダイゴ」

LB（Luria-Bertani）BROTH
》DAIGO《

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】396-00871（100 mL用×50）

概要

本品は大腸菌を宿主細胞とする遺伝子組換え操作の各ステップにおいて頻繁に用いられているLuria-Bertani処方の栄養培地である。

組成（１包［100 mL用］当たり）

ペプトン	1.0 g
酵母エキス	0.5 g
塩化ナトリウム	1.0 g
滅菌後のpH	7.0 ～ 7.4

特徴

本品は培地調製時の簡素化を主目的にして製剤設計したもので、次のような特徴を有する。
・研究室スケールに適した100 mL用の小包装である
・水になじみ易い顆粒状である
・pHを予め調整している
・室内保存に耐え、また取り扱いの簡便なアルミ製スティック包装である

調製法

本品1包（2.5 g）を精製水 100 mLに加えよく振り混ぜたのち、加温溶解し、適当な容器に分注後121℃で15分間高圧蒸気滅菌して使用する。
なお、抗生物質の適量を加える場合には、滅菌液が冷えた後に添加すること。

注意事項

本品は吸湿性が強いので、開封後は速やかに使用すること。

参考文献

１）Miller,J.H.:Experiment in Moleculer Genetics.,Cold Spring Harbor Laboratory., P433,1972.

遺伝子工学用　　大腸菌用

ＬＢ寒天培地「ダイゴ」

LB（Luria-Bertani）AGAR
》DAIGO《

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】393-00881（100 mL用×50）

概要

本品は大腸菌を宿主細胞とする遺伝子組換え操作の各ステップにおいて頻繁に用いられているLuria-Bertani処方の栄養培地である。

組成（1包［100 mL用］当たり）

ペプトン	1.0 g
酵母エキス	0.5 g
塩化ナトリウム	1.0 g
カンテン	1.5 g
滅菌後のpH	7.0 ～ 7.4

特徴

本品は培地調製時の簡素化を主目的にして製剤設計したもので、次のような特徴を有する。
・研究室スケールに適した100 mL用の小包装である
・水になじみ易い顆粒状である
・pHを予め調整している
・室内保存に耐え、また取り扱いの簡便なアルミ製スティック包装である

調製法

本品1包（4.0 g）を精製水 100 mLに加えてよく振り混ぜたのち、加温溶解し、適当な容器に分注後121℃で15分間高圧蒸気滅菌して使用する。
なお、抗生物質の適量を加える場合には、滅菌液が50℃くらいに冷えた後に添加すること。

注意事項

本品は吸湿性が強いので、開封後は速やかに使用すること。

参考文献

１）Miller,J.H.:Experiment in Moleculer Genetics.,Cold Spring Harbor Laboratory., P433,1972.

試薬
真菌抑制用

カビサイジン

KABICIDIN

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】397-00161（100 mg力価×5）

概要

カビサイジンは、武田薬品工業株式会社醗酵生産物研究所で創製（特許第247306号）されたStreptomyces gougerotiiに属する菌培養液から抽出した抗生物質で、黴、酵母等の真菌類のみ選択的に繁殖を抑制するもので細菌類は抑制を受けない。

組成

淡黄白色の粉末でS、Nを含まずC、H、O元素からなる。紫外線をさけてメタノールから再結晶すると白色ないし淡黄色の柱状晶となり、融点225℃、分子量700±80で、推定される分子式は$C_{35}H_{60}O_{13}$である。

性状

本品は、エタノール、プロピルアルコール、ブタノール、アセトン、氷酢酸、ピリジン、エチレングリコール及びメチルセロソルブにわずかに溶け、エーテル、石油エーテル、ベンゼン及び水にはきわめて溶けにくい。

調製法

1管全量を乳鉢中で微細状に粉砕し、これにアルコール10 mLを加え磨砕する。不溶分をろ過せずに全量を1 Lの培地に混入して常法に従い、滅菌して抗黴培地を調製する。

注意事項

本品は2~10℃の冷暗所に保存すること。

参考文献

1）特許第247306号.
2）百瀬洋夫他：日本醸造協会雑誌59，90，1964.
麹に付着している乳酸菌計数のための選択培地.
3）高橋由祐：日本醸造協会雑誌62，941，1967.
汚染源の追跡と対策.
4）菅間誠之助：日本醸造協会雑誌64，496，1969.
酒母省略仕込について、－アンケートによる調査結果より－

試薬
医薬品・化粧品検査
防腐剤不活化用

レシチン

LECITHIN from SOYBEAN

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】390-00271（10 g）

概要

本品は、大豆からの燐脂質製剤で、Quaternary ammonium compounds をはじめChlorhexidine, Hexachlorophene, Phenolic compounds, Derivatives of benzoic acid, Organometallic tin compounds 等の各種防腐剤を不活化する。従って、医薬品・化粧品の微生物汚染試験時の防腐剤不活化のためのLP希釈液の主成分として使用されている。
また本品は結核菌の培養に使用されるほか、防腐剤を含有する製剤の生菌数測定用培地並びに増菌用培地にも不活化剤として使用する。

組成

本品は、通常の大豆レシチン製剤を低温下で抽出し、精製して得た95～98%の燐脂質製剤で、レシチン、ケファリン及びリポシトール（イノシトールホスファチッド）のほぼ等量を含有し、また不飽和脂肪酸含量も高く、特にリノール酸に富む特徴がある。

性状

本品は、水で乳化され、アセトン、アルコールを除く一般脂溶性溶媒に溶け、ミネラルオイルには溶けない。

注意事項

本品は、吸湿性が強いので、固く密栓し、冷暗所に保存すること。

参考文献

1）石関忠一：日本化粧品技術者連合会会誌７（1）, 1, 1971.
化粧品の微生物汚染とその検査法について.
2）岩原繁雄：医薬品研究3（4）, 444, 1972.
医薬品・化粧品の微生物汚染試験法（第１報）.
3）石関忠一他：衛生試験所報告第91号，1973.
防腐剤に関する研究、とくにポリソルベート80及びレシチンによる不活化作用について.
4）石関忠一：医薬品研究4（2）, 175, 1973.
医薬品・化粧品の微生物汚染試験法（第３報）.

試薬　グラム陽性菌の選択剤
フォーゲル・ジョンソン寒天培地　添加用
ベアード・パーカー寒天培地　添加用

１%亜テルル酸カリウム溶液「ダイゴ」

POTASSIUM TELLURITE SOLUTION 1%
》DAIGO《

試験成績書はHPにてDL可能

【和光コード・包装】398-00331（2 mL×50）

概 要

テルルまたは亜テルル酸塩（tellurateまたはtellurite）は、グラム陽性菌の選択剤として、ブドウ球菌（コアグラーゼ陽性菌）、ジフテリア菌の分離培地に用いられる。又コレラ菌や、腸炎ビブリオの分離培地にも応用されている。
本品の場合、1%亜テルル酸カリウム溶液として、黄色ブドウ球菌分離用培地（フォーゲル・ジョンソン寒天培地「ダイゴ」、ベアード・パーカー寒天培地「ダイゴ」）に添加して用いる。

調 製 法

１．フォーゲル・ジョンソン寒天培地「ダイゴ」に添加の場合

フォーゲル・ジョンソン寒天培地「ダイゴ」61 gを精製水1 Lに加え溶かす。1分間煮沸した後、確認されたサイクルで高圧蒸気滅菌する。つぎにこの培地を40～50℃に冷却したのち、本品20 mL（10管）を加えてよく振り混ぜ、内径8.5～9㎝のシャーレに15～20 mLずつ分注し平板に固め培地表面を乾燥して使用する。なお、培地調製後はその日のうちに使用する。

２．ベアード・パーカー寒天培地「ダイゴ」に添加の場合

ベアード・パーカー寒天培地「ダイゴ」63 gを精製水950 mLに加えて溶かす。時々激しく振り混ぜながら加熱し、1分間煮沸溶解した後、確認されたサイクルで高圧蒸気滅菌する。つぎにこの培地を40～50℃に冷却したのち、無菌的に卵黄乳濁液（卵黄約30%と生理食塩水約70%の混和調製液）50 mLと本品10 mL（5管）を加えてよく振り混ぜ、内径8.5～9cmのペトリ皿に15～20 mLずつ分注し平板に固め培地表面を乾燥して使用する。培地調製後24時間以内に使用する。

参 考 文 献

1）E.Zebovitz et al：J.Bact., 70, 686, 1955.
Tellurite-Glycine Agar, A selective plating medium for the quantitative detection of coagulase-positive staphylococci.
2）坂崎利一他：新細菌培地学講座・上（第２版）P159,1986. 近代出版.

製品要覧

2026年9月1日　第1版発行
LABOLOGY株式会社

LABOLOGY 株式会社

〒661-0974
兵庫県尼崎市若王寺3丁目19番1号

E-mail
support@labology.co.jp

https://www.labology.co.jp

LABOLOGY